

宮城県営繕工事積算チェックマニュアル (試行版)

平成30年9月

宮城県土木部営繕課・設備課

目次

1. チェックマニュアルの目的等
2. チェックマニュアルの構成
3. 数量算出チェックリストの確認欄
4. 適用基準
5. 数量チェックシートについて

建築工事編

(新営工事用)

数量算出チェックリスト
数量チェックシート

(改修工事用)

数量算出チェックリスト
数量チェックシート

電気設備工事編

(新営工事・改修工事用)

数量算出チェックリスト

機械設備工事編

(新営工事・改修工事用)

数量算出チェックリスト

1. チェックマニュアルの目的等

宮城県営繕工事積算チェックマニュアル（以下「チェックマニュアル」という。）は、積算数量の精度向上を図ることを目的とし、積算業務の各課程において、チェックすべき項目や数量確認のための数値指標等を整理してとりまとめたものである。

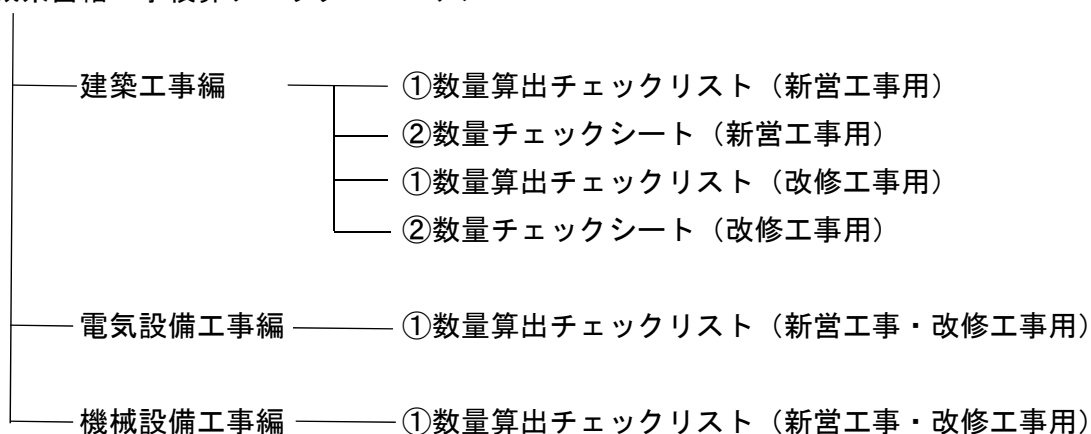
受注者（設計事務所等）は、チェックマニュアルにより積算数量算出時にチェックを行うことで、適正な積算数量であることを発注者に対して証明するため、成果品として提出するものとする。

発注者は、受注者（設計事務所等）から提出されたチェックマニュアルを活用し、成果品の内容が適正な積算数量となっていることを確認する。

2. チェックマニュアルの構成

（1）チェックマニュアルの構成

宮城県営繕工事積算チェックマニュアル



①数量算出チェックリスト

受注者（設計事務所等）が積算数量算出時に、積算すべき仕様・規格ごとの項目や数量積算上留意すべき事項について確認するためのチェック項目。

②数量チェックシート（建築工事のみ）

受注者（設計事務所等）が工事費内訳書作成時に計上する積算数量について、過去の工事等から算出された数値指標と比較確認するための計算シート。

(2) 積算作業におけるチェックフロー

受注者（設計事務所等）

設計図書の確認



積算数量算出書の作成 ← ①によりチェック



工事費内訳書の作成 ← ②によりチェック



成果品の提出

発注者

成果品の受領



積算数量算出書と工事費内訳書の数量確認 ← ①②を活用して内容を確認

3. 数量算出チェックリストの確認欄

担当技術者（積算）※1が以下の記入を行い、管理技術者※2が全体確認を行う。

確認	
チェック	備考

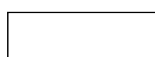
チェック：担当技術者（積算）が設計図書から算出した積算数量算出書の計算及び工事費内訳書の確認時に記入する。

備考：担当技術者（積算）が発注者への報告のため、チェック内容で特記しておくべき内容等を記入する。

※1 担当技術者（積算）：業務委託により配置される積算業務の主任担当技術者又は担当技術者

※2 管理技術者：業務委託により配置される管理技術者

凡 例



： チェック項目



： チェック対象外項目



： 確認済み



： 対象外

4. 適用基準

- ・宮城県公共建築工事積算基準
- ・公共建築数量積算基準
- ・公共建築設備数量積算基準
- ・公共建築工事標準単価積算基準
- ・公共建築工事内訳書標準書式
- ・公共建築工事見積標準書式

5. 数量チェックシートについて

(1) チェック項目

直接仮設，土工，地業，躯体，外部仕上，内部仕上，金属・仕上ユニットなどに分け，工事費内訳書の数量と既に完成されたRC造の事務庁舎の標準的な単位当たりの目安数値との積による数量や，各種算出数量との比較を行い数量の妥当性を確認する。

(2) 運用上の注意

建築工事の数量チェックは，建築面積や延床面積当たりの数量や略算方式に基づいて行われている。

数量チェックシートは，過去の事務庁舎（RC造）の実績データを基に建築面積や延床面積当たりの数量を分析し，標準的な目安の数値として示している。なお，異なる用途の建物であっても準用しチェックを行うことができる。

建築物は，固有性が高いため同一規模（面積）の建物であっても様々な要因により単位面積当たりの数量に相違が見られる。

従って，チェックシートに基づきチェックした判定が，NOであっても計算ミスがない限り間違いではなく，数量が多めな理由，少なめな理由を確認することが重要である。

建物の躯体，外部仕上げ，内部仕上げ数量の変動要因には様々なものがあり，以下に主な変動要因を示す。

①建物の形状

- ・平面に凹凸がある場合

周長率（建物周長／建築面積）が大きくなるにつれて，数量が大きくなる。

- ・階高

階高により躯体，外部仕上げ数量に変動を与える。

- ・外部開口部

外部窓の数，窓の形状（単層・連層）により躯体，外部仕上げ数量に変動を与える。

②建物用途

研究施設，住宅施設など間仕切り壁の多い（部屋数）施設などは，一般的に躯体，内部仕上げ数量が多くなる傾向にある。

③平面形状

延床面積に含まれない部分（ピット・槽類，バルコニー・庇）により，躯体，外部，内部仕上げ数量に変動を与える。

（3）数量チェックシートによる数量チェック

数量チェックは，数量チェックシートの該当する全てのチェック項目について工事費内訳書の数量の転記により行う。

①数量が目安の範囲内である場合（「OK」）

数量が目安の範囲であっても変動要因を考慮して数量の大小の傾向をチェックすることが重要である。

②数量が目安の範囲内から大きくはずれた場合（「NO」）

上記①のチェックによるほか，必要に応じて細部までの確認を行うことが重要であり，以下による。

- ・躯体（コンクリート，型枠，鉄筋）に関連する積算数量を階ごと及び部材ごとに整理集計した建築工事躯体集計表により，階別及び部材別の数量のバランスを確認し，異常値がないかの確認を行う。
- ・外部仕上げの数量は，変動要因に大きく左右されるため必要に応じて概算算出による確認も行う。
- ・内部仕上げの床，天井のように延床面積とほぼ等しくなる数量については，仕上げ集計表により各階別仕上げ面積計と各階の床面積との比較により異常値がないかの確認を行う。

建築工事編

数量算出チェックリスト
(新営工事用)

業 務 名 _____

施 設 名 _____

業務受注者名 _____

担 当 者 名

管 理 技 術 者 : _____

主任担当技術者 (積算) : _____

担当技術者 (積算) : _____

I. 基本事項

1. 基準類の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
基準类等	適用となる設計図書と基準類（適用年度）について確認したか。		
	設計図書		
	・ 図面及び仕様書		
	建築関係		
	・ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成 年版）		
	・ 建築工事標準詳細図（平成 年版）		
	積算関係		
	・ 宮城県公共建築工事積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築工事標準単価積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築数量積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築工事内訳書標準書式（建築工事編）（平成 年版）		
	・ 公共建築工事見積書標準書式（建築工事編）（平成 年版）		

2. 数量基準

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
数量	数量は、設計数量とする。ただし、計画数量又は所要数量を求める場合は、公共建築数量積算基準に示す方法としたか。		
設計寸法	設計寸法は、設計図書に記載された寸法、記載された寸法から計測・計算することのできる寸法及び計測器具により読み取ることのできる寸法としたか。		
単位	計測・計算の単位は、原則としてm、㎡、m ³ 及びtとなっているか。また、少量の施工が点在する場合の数量は、か所等の適切な単位としたか。		
端数処理	端数処理は、四捨五入としたか。		
計測寸法	計測寸法の単位はmとし、小数点以下第2位としたか。		

3. 適用の設計図書の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
工事名	工事名を確認したか。		
工事場所	工事場所を確認したか。		
工事種目	工事種目を確認したか。		
	建物・工事種目ごとに数量の拾い分けをしたか。		
工期	工期を確認したか。また、工期の始期が設定されている場合は始期も確認したか。		
	・工期：平成 年 月 日 (始期：平成 年 月 日)		
指定部分	指定部分の有無を確認したか。		
	・無し		
	・有り 工期：平成 年 月 日 範囲：		
予算区分	予算の区分による拾い分けが必要か発注者に確認したか。		
	・無し		
	・有り 範囲：		
関連工事	本工事以外の関連工事があるか発注者に確認したか。		
	・無し		
	・有り (・ 電気設備工事 ・ 機械設備工事 ・) 関連工事がある場合は、仮設の範囲を確認したか。		
発注範囲	本工事において(発注しない)別途工事部分があるか確認したか。		
	・無し		
	・有り 特記仕様書記載 (・ ・) ・有り 図面記載 (・ ・)		

II. 工事費の積算

1 一般事項

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
一般事項	施工量が少量または僅少の場合、施工場所が点在する場合及び工程上連続作業が困難な場合等の単価及び価格は、施工に最低限必要な材料・労務・機械器具等を考慮したか。		
	設計変更における基準は、当初設計における工事費積算時の基準としたか。		

2 仮設

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	工事規模に対して、工期が適切か確認したか。		
	任意仮設の項目について仮設計画図を作成し、適切か確認したうえで算出したか。		
	指定仮設の項目について範囲等を確認して算出したか。		
	施工条件明示を確認して算出したか。		
	工事範囲を分割する場合、仮設を区分をするか確認して算出したか。		
	試験・調査の有無を確認して算出したか。		
	VOC測定の有無を確認して算出したか。		
	算出する建物が、「一般」、「小規模、複雑」のどちらに該当するか確認して算出したか。		
遣方	建築面積にドライエリア、外部階段等の設置部分の面積を加算したか。		
	地下階が有る場合や小規模建物の場合に遣方の検討をして算出したか。		
墨出し、養生、整理清掃・後片付け	建物の延べ面積（建築物の各階の床面積の合計）で算出したか。		
	ドライエリア、ベランダ等は区分して算出したか。		
外部足場	設計地盤と現状地盤が異なる場合、現状地盤（平均）を基準線として算出したか。		
	足場の種類（枠組幅等）により区分して算出したか。		
ドライエリア足場	ドライエリア内の足場を算出したか。		
地足場	地足場が必要か確認し、必要な場合、建物の建築面積で算出したか。ただし、地下面積が建築面積を超える場合、地下部分の水平投影面積を含めて算出したか。		
内部足場	躯体工事用及び仕上工事用を区分して算出したか。		
	ピット、二重スラブ等の場合でも必要か確認して算出したか。		
内部躯体足場	鉄筋・型枠足場及び躯体支保工は階高により区分して対象床面積を算出したか。		
内部仕上足場	壁仕上げのみの部分を区分して算出したか。		
内部階段足場	「n階建」の建物において階段室床面積×(n-1)として算出したか。		
シャフト内足場	各階シャフト内の床面積を合計して算出したか。		
災害防止	小幡ネットを算出したか。		
	養生防護柵が必要か確認して算出したか。		

3 土工・地業

3-1 土工

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	土工計画（根切り図等）を作成して算出したか。 （山留め計画、排水計画、構台計画の参考図は作成されているか確認したか。）		
	根切り基準線の位置を確認して算出したか。		
	土工数量の流用計画を作成して算出した数量に過不足が無いか確認したか。		
整地	整地の範囲が指定されているか、すきとり又は切土が必要か確認して算出したか。		
根切り	根切り基準線から算出したか。		
	余幅を算出したか。		
床付け	基礎、基礎梁下、耐圧盤下等の地業面積で算出したか。（小規模土工を除く機械施工を対象とする）		
	盛土部分は除いて算出したか。		
埋戻し	埋戻しの数量＝根切りの数量－（現状GL以下の基礎又は地下構築物（ピット含む）の体積＋砂利地業の体積＋捨てコンクリートの体積）を確認したか。		
盛土	設計GLが根切り基準線より高い場合、盛土を算出したか。		
仮置き土	根切り周辺部に仮置きできるか確認し、できない場合は運搬距離ごとに区分して算出したか。		
建設発生土	建設発生土の数量＝根切りの数量＋すきとりの数量－（埋戻しの数量＋盛土の数量）を確認したか。		
	運搬距離及びダンプトラックの規格ごとに区分して算出したか。		
	処分指定場所ごとに区分して算出したか。		
専用仮設	山留め等は仮設参考図の指定により算出したか。		
機械運搬	必要台数及び回数を算出したか。		

3-2 地業

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	材種、規格、工法等に区分して算出したか。		
床下防湿層敷き	基礎梁際の、のみ込みを確認して算出したか。		
床下断熱材敷き	基礎梁際の、のみ込みを確認して算出したか。		
既製 コンクリート杭	継手について特記仕様書を確認したか。		
	杭間ざらいを算出したか。		
	建設発生土又は建設汚泥は、工法ごとに区分して算出したか。		
	杭頭補強は種別ごとに区分して算出したか。		
場所打ち コンクリート杭	杭頭部の余盛りを加算して算出したか。		
	コンクリートの所要数量算出のための割増し率を確認して算出したか。		
	鉄筋の所要数量算出のための割増率を確認して算出したか。 （数量基準では、3%増を標準とする）		
	鋼材の所要数量算出のための割増率を確認して算出したか。		

4 躯体

4-1 鉄筋

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	【躯体】、【外部仕上】及び【内部仕上】に区分して算出したか。 規格、形状、寸法等ごとに区分して設計数量で算出したか。		
鉄筋	集計表は、①部位別、②階別及び③部材別に作成したか。		
	所要数量を求めるときに、割増率（4%）を確認して算出したか。		
	床板の出隅及び入り隅補強筋を算出したか。		
	フックの必要な部位を確認して算出したか。		
	フープ及びスタラップの鉄筋が小径であることを確認して算出したか。		
	床版～梁取合いの受け筋を算出したか。		
	開口部、コンクリート貫通箇所等の補強筋を算出したか。		
スクラップ控除	鉄筋の割増数量（所要数量－設計数量）に対し、スクラップを70%として算出したか。		
継手	継手方法について設計図書を確認したか。		
	ガス圧接は径別に箇所数を算出したか。		
スリーブ	工事区分（建築及び設備）を確認して算出したか。		

4-2 コンクリート

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	【躯体】、【外部仕上】及び【内部仕上】に区分して算出したか。		
コンクリート	集計表は、①部位別、②階別、③部材別及び④打設別に作成したか。		
	コンクリート種別、設計強度、スランプ等により区分して算出したか。		
	鉄骨によるコンクリートの欠除について換算した体積を算出したか。		
	壁・柱・梁で外部に面する打放しコンクリート部分の増打ち及び意匠上の増打ちの見落としはないか。		
	防水工事の保護コンクリートの見落としはないか。		
	下がり壁の見落としはないか。		
打設手間	施工計画を確認して打設区分ごとに集計したか。		
	建物内及び屋上の設備基礎等で後打ちが想定される場合は小型構造物として算出したか。		
構造体強度補正	対象地域、打設工程を確認して、コンクリート数量を打設区分ごとに集計したか。		
専用仮設	配管型ポンプ車の場合、コンクリート足場を算出したか。		
養生	寒冷期（外気温3℃未満）にやむを得ずコンクリート打設を行う場合、養生のための足場、シート等を算出したか。		

4-3 型枠

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	【躯体】、【外部仕上】及び【内部仕上】に区分して算出したか。 普通合板型枠、打放し合板型枠、曲面型枠等を材料、工法、コンクリート打設面等に区分して算出したか。		
型枠	普通合板型枠と打放し合板型枠を重複して算出していないか。		
	勾配屋根の場合、上部型枠は必要か確認して算出したか。		
打放し面補修	建物内及び屋上の設備基礎等で後打ちが想定される部位は区分して算出したか。		
打放し面補修	打放し面ごとに算出したか。		
コーン処理	使用部位を設計図書で確認して算出したか。		
型枠目地棒	打継目地、化粧目地、ひび割れ誘発目地及び大面木の形状ごとに算出したか。		

4-4 鉄骨

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	【主体鉄骨】及び【付帯鉄骨】に区分して算出したか。		
	【工場製作】及び【現場建方】に区分して算出したか。		
	規格、形状、寸法等ごとに区分して、設計数量で算出したか。		
鋼材	所要数量を求めるときに、割増率を確認して算出したか。		
工場加工組立	鉄骨工場加工組立と軽量鉄骨加工組立を区分して算出したか。		
高力ボルト	形状から締め付け長さが適切か確認して算出したか		
スタッドボルト	現場施工及び工場施工別に区分して算出したか。		
デッキプレート	コンクリート流れ止めが必要か確認して算出したか。		
ブレース	ブレース材重量及びターンバックルなどの内寸法で算出したか。（羽子板は含まない）		
スクラップ控除	鋼材の割増数量（所要数量－設計数量）に対し、スクラップを70%として算出したか。		
PC板取付用1次ファスナー	PC工事と鉄骨工事の工事区分を確認して算出したか。		
耐火塗料	部位別及び部材別に算出したか。		
鉄骨工場塗装	一般・ラチス・軽量別に算出したか。		
	工場塗装と現場塗装を明確に区分して算出したか。		
スリーブ	工事区分（建築及び設備）を確認して算出したか		
主体鉄骨建方	設計数量（現場本締ボルトは含まず）で算出したか。		
建方機械器具	揚重機械選定は、最大作業半径と吊上荷重を確認して算出したか。		
	揚重機械の存置日数は、選定した機種を確認して算出したか。		
超音波探傷試験	検査水準・AOQLにより、算出したか。		
溶接長さ	仕様書、標準図により溶接種別ごとに、算出したか。		
耐火被覆	耐火性能ごとに区分して算出したか。		
	被覆範囲を確認して算出したか。		
専用仮設	鉄骨足場は鉄骨軸部分の延べ面積で算出したか。		
災害防止	各階ごとに水平ネット張りを算出したか。（平家建の場合は不要。）		
	鉄骨軸組部分の延べ面積、掛け長さ及び箇所を算出したか。（柱外面で囲まれた範囲も含む）		

5 仕上

5-1 外部仕上げ

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	施工計画を確認し工程ごとに算出したか。		
	材種別に部位、形状、寸法、工法等に区分して算出したか。		
ALCパネル 押出成形セメント板	パネル間の目地材の施工区分を確認し、見積りに含まない場合は算出したか。		
	他部材との取り合い部の目地材は算出したか。		
	表面仕上げ（工場又は現場）の確認をし、表面材による拾い分けをしたか。		
	2次ファスナーの見落としはないか。		
防水			
アスファルト防水	防水層の保護（押えコンクリート等）が必要か確認して算出したか。		
合成高分子シート防水	防水層の工法及び種別ごとに区別して算出したか。		
塗膜防水	防水層の種別ごとに区別して算出したか。		
入り隅処理	必要の有無を確認して算出したか。		
	成形キャント材（防水）とモルタル（左官）の分けを確認し、区分して算出したか。		
成形緩衝材	必要の有無を確認して算出したか。		
脱気装置	必要の有無を確認して算出したか。		
シーリング	種類、施工箇所及び目地巾を確認して算出したか。		
	タイル張りにおける伸縮調整目地、ひび割れ誘発目地及び打継目地のシーリングを算出したか。		
	二重シール部分の見落としはないか。		
とい			
鋼管とい保温	といの部位及び径ごとに、一般の屋内露出部、天井内等、厨房・浴室内等に区分して算出したか。		
鋼管とい塗装	といの材質及び径ごとに算出したか。		
鋼管とい掃除口	といの部位及び径ごとに区分して算出したか。		
	床上及び床下に区分して算出したか。		
ルーフトレン	材質、径、形式（縦引、横引及び中継用）及び防水仕様ごとに区分して算出したか。		
石	引き金物及び取付金物の見落としはないか。		
タイル	コンクリート素地面処理の工法を確認したか。（目荒し工法又はMCR工法）		
	密着張り、改良積上張り、改良圧着張り、マスク張り等の工法ごとに区分して算出したか。		
	役物類がある場合、外壁タイル面積から役物の面積を控除して算出したか。		
	壁大判タイル張りの場合、引き金物及び取付金物の見落としはないか。		
軽量鉄骨天井下地	天井仕上げの種類を確認して野縁の間隔ごとに算出したか。		
	振れ留め加算の有無を確認して算出したか。		
	天井のふところ高さを考慮して算出したか。		
アルミニウム製 笠木・水切り金物	寸法、形状及び表面仕上げごとに算出したか。		
	周長を直線部として算出した場合は、コーナー加算も算出したか。		
仕上塗材仕上げ	仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法ごとに算出したか。		

5-2 内部仕上げ

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	施工計画を確認し工程ごとに算出したか。		
	材種別に部位、形状、寸法、工法等に区分して算出したか。		
床			
共通	床仕上げの合計が延べ面積を超えていないか確認したか。		
左官			
床コンクリート直均し仕上げ	表面仕上げごとに区分して算出したか。		
	フリーアクセスフロア及び二重床の場合は仕上りの平坦さを確認して区分したか。		
下地モルタル塗り	張り物、敷物、防水下地及びタイル張りの工法ごとに算出したか。		
壁			
共通	下地張りの有無及び工法の確認をしたか。		
既製コンクリート			
コンクリートブロック積み	ブロックの種類（適用箇所及び区分）を確認したか。		
	片面化粧及び両面化粧ごとに算出したか。		
まぐさコンクリート	断面ごとの箇所数で算出したか。		
ALCパネル	パネル間の目地材の施工区分を確認し、見積りに含まない場合は算出したか。		
	他部材との取り合い部の目地材は算出したか。		
	表面仕上げ（工場又は現場）の確認をし、表面材による拾い分けをしたか。		
	2次ファスナーの見落としはないか。		
押出成形セメント板	パネル間の目地材の施工区分を確認し、見積りに含まない場合は算出したか。		
	他部材との取り合い部の目地材は算出したか。		
	表面仕上げ（工場又は現場）の確認をし、表面材による拾い分けをしたか。		
	2次ファスナーの見落としはないか。		
タイル			
内装タイル張り	役物類がある場合、タイル面積から役物の面積を控除したか。		
壁ユニットタイル	タイルの大きさにより工法を確認して算出したか。		
壁タイル接着剤張り	施工箇所により有機質接着剤の種類をタイプⅠ及びⅡに区分して算出したか。		
金属			
軽量鉄骨壁下地	下地張りの有無を確認してスタッドの間隔ごとに算出したか。		
	梁及びスラブ下あるいは天井面まで設置するか確認して算出したか。		
	軽量鉄骨壁下地共（耐火間仕切り壁等）の部位による、重複計上はないか。		
壁見切縁	材種及び形状ごとに算出したか。		
左官			
下地モルタル塗り	各種タイル張り工法別に算出したか。		
モルタル塗り	刷毛引き及び金ごて仕上げを部位ごとに区分して算出したか。		
仕上塗材仕上げ	仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法ごとに算出したか。		
塗装			
素地ごしらえ	下地の種類ごとに素地ごしらえの種類を確認したか。		
塗装係数	建具類、鉄骨等に採用した係数は妥当か。		
さび止め塗料塗り	鉄鋼面及び亜鉛めっき面ごとに算出したか。		
各種塗装仕上げ	一般面、見上げ面及び仕様の種類ごとに算出したか。		
耐候性塗料塗り	鉄鋼面において、下地処理等の確認をしたか。		
内外装			
ボード張り	仕上種別、下地種別、厚さ等を確認して算出したか。		
耐火間仕切	軽量鉄骨下地と両面のボードを一括含み片面面積で算出したか。		
遮音間仕切	遮音シール材の仕様を確認して算出したか。		
断熱材張り・打ち込み	種類及び施工箇所を確認して算出したか。		

天井			
共通	天井仕上げの合計が延べ面積を超えていないか確認したか。		
	下地張りの有無及び仕様の確認をしたか。		
金属			
軽量鉄骨天井下地	天井仕上げの種類を確認して野縁の間隔ごとに算出したか。		
	振れ留め加算の有無を確認して算出したか。		
	天井のふところ高さを考慮して算出したか。		
	ホール等の大空間の場合、耐震性を考慮した補強が必要か確認し算出したか。		
	下がり壁の見落としはないか。		
天井廻縁	材種ごとに算出したか。		
下がり壁見切縁	材種ごとに算出したか。		
塗装			
素地ごしらえ	下地の種類ごとに素地ごしらえの種別を確認したか。		
塗装係数	建具類、鉄骨等に採用した係数は妥当か。		
さび止め塗料塗り	鉄鋼面及び亜鉛めっき面別に算出したか。		
各種塗装仕上げ	一般面、見上げ面及び仕様の種別ごとに算出したか。		
耐候性塗料塗り	鉄鋼面において、下地処理等の確認をしたか。		
内外装			
ボード張り	仕上種別、下地種別、厚さ等を確認して算出したか。		
断熱材張り・打ち込み	種類及び施工箇所を確認して算出したか。		
その他			
木工			
構造材・小割材	断面部材が、ひき立て寸法又は仕上がり寸法で示しているか確認したか。		
	材料と施工手間を分けて計上する場合、材料は所要数量で算出したか。		
造作材	断面部材が、ひき立て寸法又は仕上がり寸法で示しているか確認したか。		
	材料と施工手間を分けて計上する場合、材料は所要数量で算出したか。		
銘木(板材、縁甲板)	本数、枚数又は面積で算出したか。		
金属			
あと施工アンカー	金属系及び接着系を区分して算出したか。		
	径別及び施工部位別に区分して算出したか。		
手摺り	斜部手摺りは、水平投影長さではなく手すり長さで算出したか。		

6 建具

6-1 木製建具

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	建具キープランと建具表の数量のくい違いはないか確認して算出したか。		
	建具面の仕上げ及び塗装の有無を確認して算出したか。		
ふすま	上張りによる区別をしたか。		

6-2 金属製建具

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	建具キープランと建具表の数量のくい違いはないか確認して算出したか。		
	種別（耐風圧、気密及び水密性）、枠見込み、表面処理などの性能・仕様を確認したか。		
	主仕上の材質、形状等により区分して算出したか。		
	同じ符号で枠・金物等の違いがある場合がないか確認したか。		
アルミニウム製建具	焼き付け塗装の場合は、塗装計測対象外としたか（建具の見積に含めるため）。		
	網戸の設置が必要か確認して算出したか。		
	建具と水切間のシーリングを建具見積りに含む場合は、計上対象外としたか。		
自閉式上吊り引戸装置	内部建具がある場合、外部建具と区分して算出したか。		
自動ドア開閉装置	装置付建具は、その他建具と区分して算出したか。		
建具周囲シーリング	数量計上の見落としはないか。		
	建具内法寸法による周長で算出したか。		
	断面（目地幅）寸法ごとに区分して算出したか。		
枠廻りモルタル充填	シーリング材の種類を、被着体の組み合わせにより確認して算出したか。		
	建具内法寸法による周長で算出したか。		
	下枠、くつずり及び目地棒がない場合、計測範囲を確認して算出したか。		
枠周り断熱材補修	外部及び内部に区分して算出したか。		
	建具内法寸法による周長で算出したか。		
枠周り断熱材補修	下枠、くつずり及び目地棒が無い場合、計測範囲を確認して算出したか。		
	建具内法寸法による周長で算出したか。		

6-3 カーテンウォール

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
メタルカーテンウォール	平面図と建具表の数量のくい違いはないか確認して算出したか。		
	シーリング材の種類及び構造用ガスケットの適用を確認して算出したか。		
	取り合う笠木、幕板、カーテンボックス等の工事範囲を確認して算出したか。		
PCカーテンウォール	仕様、厚さ及び寸法に区分して算出したか。		
	パネル間の目地材は計測対象外（見積に含める）とし、他部材との目地材は算出したか。		
	表面（裏面共）仕上げ及び建具の取り付けは計測対象となるか確認して算出したか。		
	2次ファスナーの見落としはないか。		

6-4 ガラス

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	材種、形状、規格寸法、厚さ及び留め材ごとに算出したか。		
	特殊寸法及び特殊形状は寸法ごとに単位を枚として算出したか。		
	小口処理等の特殊加工を必要とする箇所が有るか確認して算出したか。		
熱線反射ガラス	熱線反射ガラスの映像調整は必要か確認して算出したか。		
強化・複層・合わせガラス	特寸 2.0m2以下、4.0m2以下及び6.0m2以下ごとに算出したか。		
その他板ガラス	特寸 2.18m2以下、4.45m2以下及び6.81m2以下ごとに算出したか。		

7 仕上ユニット

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
棚、流し台、ユニットバス、鏡	材種、規格、形状及び寸法ごとに箇所数を算出したか。		
スクリーン、隔壁、カウンター	材種及び規格ごとに算出したか。		
表示板、換気孔、ルーバー、床下点検口	材種、規格、形状及び寸法ごとに箇所数を算出したか。		
カーテン、ブラインド	材種、規格、形状及び寸法ごとに箇所数を算出したか。		
カーテンボックス	材種、形状及び寸法ごとに長さを算出したか。		
移動間仕切 可動間仕切	材種及び規格ごとに面積又は箇所数を算出したか。		
	遮音性の特記がある場合、設計図書により天井内ふさを算出したか。		
造り付け家具	設置する面の仕上を控除したか。		

8 外構

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	敷地境界が明確になっているか確認したか。		
	敷地内と敷地外を区分して算出したか。		
	外構計画（施工計画）を作成し算出したか。		
	共通仮設は計画図を基に算出したか。		
	土工算出において、異工種（舗装と縁石、舗装と樹等）の重複範囲を控除したか。		
	土工数量の流用計画を作成して算出した数量に過不足が無いか確認したか。		
困障			
共通	施工計画を確認して工程ごとに算出したか。		
	困障の種別、材質、形状、寸法、工法、施工規模等に区分して算出したか。		
仮設	仮設を適切に算出したか。		
舗装			
共通	施工計画を確認して1区画ごとに算出したか		
	舗装の種別、構成、厚さ及び施工規模ごとに区分して算出したか。		
仮設	仮設を適切に算出したか。		
コンクリート舗装	コンクリートの規格、溶接金網及び目地の有無を確認したか。		
舗装機械運搬	舗装機械の編成は適切か。		
屋外排水設備			
共通	施工計画を確認し工程ごとに算出したか。		
	建設発生土を適切に算出したか。		
排水管	材種、呼び径及び管底深さごとに算出したか。		
樹	用途、大きさ及び管底ごとに算出したか。		
	マンホールの材質、用途及び適用荷重を確認したか。		
	グレーチングの材質、用途、適用荷重、メインバーピッチ等を確認したか。		
既製U型側溝	ブロック形状、呼び名及び種別ごとに算出したか。		
	グレーチングの材質、用途、適用荷重、メインバーピッチ等を確認したか。		
現場打ちU型側溝	コンクリートの規格及びサイズごとに算出したか。		
	グレーチングの材質、用途、適用荷重、メインバーピッチ等を確認したか。		
自由勾配側溝	ブロック形状及び寸法ごとに算出したか。		
	勾配調整コンクリートを算出したか。		
L形・V形側溝	ブロック形状及び寸法ごとに算出したか。		
街きよ、縁石	ブロック形状及び寸法ごとに算出したか。		
その他	既存樹の接続補修を算出したか。		

9 植栽

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
植栽			
共通	新植・移植・伐採抜根ごとに区分したか。		
	必要に応じて揚重機械等を算出したか。		
植栽基盤	有効土層厚さ及び植栽基盤整備工法種別ごとに算出したか。		
植込み用土	客土と現場発生土の種類ごとに算出したか。		
土壌改良材	土壌改良材の使用の有無、材料、規格及び使用量ごとに算出したか。		
盛土	現状地盤の基盤整備と区分して算出したか。		
	植込み用土の種類を確認したか。		
新植	樹種及び寸法（樹高、幹径、葉張り等）ごとに算出したか。		
植え込み手間	寸法ごとに算出したか。		
幹巻き	寸法ごとに算出したか。		
支柱、ツリーサークル等	材質、形状及び寸法ごとに算出したか。		
付合物	設計図書により説明標、説明板等の付合物を算出したか。		
芝張り	種類及び工法ごとに算出したか。		
地被類	m ² 当たりのコンテナ数を確認したか。		
	種類及び寸法ごとに算出したか。		
移植	移植場所及び仮移植の有無を確認したか。		
	樹種、高さ及び樹周ごとに算出したか。		
根巻き	根巻きの有無を確認し、算出したか。		
伐採抜根	伐採・抜根・伐採抜根を区分して樹種及び寸法ごとに算出したか。		
	発生材の運搬距離・受け入れ場所は設計図書に対応しているか。		
屋上緑化	仕様等を設計図書で確認したか。		
	設備工事との区分について、確認して対象となる数量を算出したか。		
	搬入方法を設計図書で確認し、適切に計上したか。		
	養生及び整理清掃後片付けの有無を確認して必要な場合は算出したか。		
	屋上緑化システムの場合、樹木、植え込み手間、支柱等は、樹木（新植）に準じて算出したか。		

10 発生材処理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
発生材運搬	発生材の種別ごとに区分して算出したか。		
	運搬距離及びダンプトラックの規格ごとに区分して算出したか。		
	敷地状況、発生量等を勘案して算出したか。		
発生材処分	発生材の種別ごとに区分したか。		

11 共通仮設費積み上げ

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	仮囲いの種別、高さ及び存置期間ごとに区分して算出したか。		
	構内の軟弱地盤、重機の走行等により必要に応じて工事用道路等を算出したか。		
	交通誘導警備員の種別ごとに区分して算出したか。		
	揚重機械器具を規格ごとに区分して算出したか。		
	その他施工条件明示による積み上げ項目を確認したか。		

数量チェックシート
(新営工事用)

業 務 名 _____

施 設 名 _____

業務受注者名 _____

担 当 者 名

管 理 技 術 者 : _____

主任担当技術者（積算） : _____

担当技術者（積算） : _____

施設名														工事地区					
														階数		平均階高		地下	
建築面積 (m ²)	延床面積 (m ²)	床面積 (m ²)			スパン数(カ所)		平均スパン(m)		本体鉄骨総量	標準対象面積	鉄骨単位重量	溶接延長	tあたり溶接長	基礎根入深さ(m)	杭種別				
		地下	地上	PH	X =	Y =	X =	Y =	t	m ²	t/m ²	m	t/m		有	無			
鉄筋													型枠						
計	(t)	kg/延m ²	kg/㎡m ³		型枠(一般)	型枠(コソ付)	打放(A種)	打放(B種)	打放(C種)コソ	打放(C種)				計 (m ²)	型m ² /延m ²	型m ² /㎡m ³			
基礎部				平面								基礎部							
軸部				曲面								軸部							

部材	材種等	コンクリート		型枠	鉄筋	鉄筋										圧接(箇所)			
		m ³	注(7) ㎡m ³ /m ²			m ²	型m ² /㎡m ³	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	計(t)	kg/㎡m ³	D19	D22	D25
基礎																			
床版(土間、最下階床版)																			
耐圧版																			
地中梁																			
地中小梁																			
下部柱																			
雑(壁)																			
計																			
上部柱	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
大梁	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
小梁	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
床版	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
壁(下り壁、腰壁含む)	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
階段	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
雑	B1F																		
	1F																		
	2F																		
	3F																		
	4F																		
	PH																		
	小計																		
計																			
合計																			
(鉄筋のロス率4%)																			

注) (1)「基礎部」の「雑」には、各部材に含まれない増し打ち、ピット等を記載する。
 (2)「下部柱」は、コンクリート、型枠、鉄筋を記載するが、継手は上部階の柱で処理する。
 (3)「軸部」の雑には、各部材に含まれない仕上の増し打ち、バラベットの、水切、庇、工作物等を含めて記載する。
 (4)鉄筋の数量は、t数を記載する。ただし合計部分には、上段はネットt数、下段には、ロス含t数を記載する。
 (5)上記の鉄筋kg/m²は、設計数量とする。
 (6)基礎部は「㎡m³/延m²」、軸部は「㎡m³/延m²」とする。

数量チェックシート（工事費内訳書チェック項目）

1 直接仮設

チェック項目	チェック内容	確認
遣方	<ul style="list-style-type: none"> ・建築面積により確認を行う。 ・建築面積に含まれないドライエリア、ピット等の確認を行う。 	
墨出し 養生 整理清掃後片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ面積により確認を行う。 ・延べ面積に含まれないドライエリア、ピット、バルコニー等の確認を行う。 	
地足場	<ul style="list-style-type: none"> ・建築面積により確認を行う。 ・建築面積に含まれない地下部分の水平投影面積を確認する。 	
外部足場	<ul style="list-style-type: none"> ・建物高さ及び周長により概略面積を算出し確認を行う。 	
同登り栈橋	<ul style="list-style-type: none"> ・建物高さ及び箇所による概略長さを算出し確認を行う。 	
同安全手すり	<ul style="list-style-type: none"> ・外部足場周長により確認を行う。 	
内部躯体足場	<ul style="list-style-type: none"> ・内部躯体足場（鉄筋・型枠足場及び躯体支保工）の総面積を延べ面積により確認する。 	
内部仕上足場	<ul style="list-style-type: none"> ・内部仕上足場（脚立足場、簡易移動式足場、仕上支保工、階段、シャフト等）の総面積を延べ面積により確認を行う。 	
外部足場 養生シート張り等	<ul style="list-style-type: none"> ・外部足場面積により概略面積を算出し確認を行う。 	
外部足場小幅ネット	<ul style="list-style-type: none"> ・足場周長及び階数により概略長さを算出し確認を行う。 	

2 土 工

チェック項目	チェック内容	確認
土工数量の収支	<ul style="list-style-type: none"> ・根切り、埋戻し及び建設発生土処分の整合を確認する。 	
根切り	<ul style="list-style-type: none"> ・つぼ・布掘：建築面積当たりの数値により確認を行う。 ・総掘：根切り深さ及び建築面積により概略数量を算出し確認を行う。 	
埋戻し	<ul style="list-style-type: none"> ・埋戻し種別により数量の確認を行う。 	
建設発生土処分	<ul style="list-style-type: none"> ・地中内コンクリート等による概略数量により確認を行う。 ・地下部分の概略体積を算出し確認を行う。 	
山留め	<ul style="list-style-type: none"> ・建物周長及び根切り深さによる概略数量を算出し確認を行う。 	
排水	<ul style="list-style-type: none"> ・釜場の想定箇所の確認を行う。 	

3 地 業

チェック項目	チェック内容	確認
砂利地業	<ul style="list-style-type: none"> ・建築面積等により概略数量を算出し確認を行う。 	
捨コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> ・建築面積等により概略数量を算出し確認を行う。 	
既製コンクリート杭	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図書により本数を確認する。 	
場所打ちコンクリート杭	<ul style="list-style-type: none"> ・数量算出書により概略数量を確認する。 	

4 躯体

チェック項目	チェック内容	確認
(1) コンクリート		
鉄筋コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート総量（建物用途）を延べ面積当たりの数値により確認を行う。 ・コンクリート総量の部位別（基礎部及び軸部）数量を延べ面積当たりの数値により確認を行う。 	
防水押えコンクリート	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根防水面積により概略数量を算出し確認を行う。 	
コンクリート足場	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ面積により確認を行う。 	
(2) 型 枠		
型枠	<ul style="list-style-type: none"> ・型枠総量を延べ面積当たりの数値により確認を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・型枠総量（建物用途）を鉄筋コンクリートm^3当たりの数値により確認を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・型枠総量と型枠種別ごとの収支の確認を行う。 	
型枠運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・型枠総量との確認を行う。（デッキプレート、ボイド等を除く） 	
(3) 鉄 筋		
鉄筋	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋総量を延べ面積当たりの数値により確認を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋総量（建物用途）を鉄筋コンクリートm^3当たりの数値により確認を行う。 	
ガス圧接	<ul style="list-style-type: none"> ・箇所数を鉄筋総量当たりの数値により確認を行う。 	
(4) 鉄 骨		
鉄骨	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨総量を鉄骨造対象延べ面積当たりの数値により確認を行う。 	
工場溶接長さ	<ul style="list-style-type: none"> ・工場溶接長さを鉄骨総量当たりの数値により確認を行う。 	

5 外部仕上

チェック項目	チェック内容	確認
(1) 屋 根		
防水層	<ul style="list-style-type: none"> ・防水水平面積を建築面積により確認を行う。 ・防水立上り面積を建築面積及び建物周長より確認を行う。 	
立上り保護	<ul style="list-style-type: none"> ・建築面積及び建物周長により確認を行う。 	
(2) 外 壁		
外壁仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・建物高さ及び周長により概略面積を算出し確認を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・主仕上げと下地面積の整合を確認する。 	
(3) 外部建具		
建具	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウム製、鋼製、鋼製軽量、ステンレス製、シャッター等の建具箇所を設計図書により確認を行う。 	
ガラス	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁仕上げ面積の開口率により確認を行う。 	

6 内部仕上げ

チェック項目	チェック内容	確認
(1) 床仕上げ	・床仕上げ総面積を延べ面積により確認を行う。	
	・主仕上げと下地面積の整合を確認する。	
(2) 壁仕上げ	・壁仕上げ総面積を延べ面積により確認を行う。	
	・主仕上げと下地面積の整合を確認する。	
	・主仕上げと表面処理面積の整合を確認する。	
(3) 天井仕上げ	・天井仕上げ総面積を延べ面積により確認を行う。	
	・主仕上げと下地面積の整合を確認する。	
	・主仕上げと表面処理面積の整合を確認する。	
(4) 内部開口部	・アルミニウム製、鋼製、鋼製軽量、ステンレス製、シャッター等の建具箇所を設計図書により確認を行う。	
	・鋼製、鋼製軽量、シャッター等の塗装面積を塗装係数により確認を行う。	

7 金属・仕上げユニット

チェック項目	チェック内容	確認
共通事項	・通常、建物に取付く金物、仕上げユニットの代表的なもの、数量の多いもの及び高価なものを抽出して設計図書又は概略算出により確認を行う。	
(1) 外部金属		
1) 屋根廻り	・パラペット笠木、ルーフトレン、縦どい等	
2) 外壁廻り	・タラップ、懸垂幕受け金物等	
(2) 内部金属		
1) 床廻り	・マンホール、点検口、階段ノンスリップ等	
2) 壁廻り	・階段手すり、便所手すり、タラップ、コーナービード等	
3) 天井廻り	・点検口、天井見切り縁等	
(3) 外部仕上ユニット	・煙突ライニング材、靴ふきマット等	
(4) 内部仕上ユニット		
1) 共通	・案内板、ピクトグラフ、ブラインド、カーテン、ブラインドボックス、書架、造付け家具、既製間仕切、可動間仕切等	
2) 水廻り	・流し台、コンロ台、吊り戸棚、水切り棚、流し上部見切り、フード等	
3) トイレ廻り	・トイレブース、洗面台、鏡、甲板等	

工種別子エックシート

1. 直接仮設

名称	摘要	単位	内訳数量	子エック項目		子エック数量		判定	確認事項
				≧	≦	()	()		
遺方	建築面積	m ²		建築面積	()			OK NO	
	上記以外の地下部 水平面積	m ²							
	ドライエリア	m ²							
	ピット(建物外)	m ²							
	その他() 計	m ²							
墨出し 養生 整理清掃後片付け	延床面積	m ²		延床面積	()			OK NO	
	ドライエリア	m ²							
	ピット(建物外)	m ²							
	バルコニー	m ²							
	その他() 計	m ²							
地足場	建築面積	m ²		建築面積	()			OK NO	
	上記以外の地下部 水平投影面積 計	m ²							
外部足場	枠組本足場面積	m ²		(建物周長+8m) × ハラハットまでの高さ	() × () = () × () = () × () = () × () = 合計 ()			OK NO	
	単管本足場面積	m ²							
	単管本足場用 登り桟橋	m		箇所数(≧2箇所以上又は、 各外壁面設置程度(4箇所) 箇所数×ハラハットまでの高さ×2.0	箇所数=() 登り桟橋長さ= 箇所 × m × 2.0 =				
	安全手すり	m		外部足場周長	()				
	鉄筋・型枠脚立足場 躯体支保工 計	m ² m ²							
内部躯体足場	脚立足場	m ²		延床面積	()			OK NO	
	簡易移動式足場 その他 計	m ² m ²							
内部仕上足場	脚立足場	m ²		延床面積	()			OK NO	
	簡易移動式足場	m ²							
	その他	m ²							
	計								
	外部足場シート類	m ²		外部足場面積	()				
災害防止	外部足場小幅ネット	m		(建物周長+8m) × (建物階数)	() × () =			OK NO	
	水平安全ネット類	m ²		鉄骨造部分延床面積	()				

2. 土工

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目		チェック数量		判定	確認事項
				=	≠	() + () =	() - () =		
土工の収支 (すき取りを含む) ・根切り ・埋戻し ・建設発生土処分	根切り量	m ³						OK NO	
	埋戻し量	m ³						OK NO	
	建設発生土処分量 (埋戻しB種)	m ³						OK NO	
	建設発生土処分量 (埋戻しA・C・D種)	m ³						OK NO	
すき取り	範囲明示の場合 (敷地全体)	m ³						OK NO	
	範囲明示のない場合 (建物周囲2m程度)	m ³						OK NO	
	つぼ・布張り	m ³						OK NO	
	法付き総掘り (深さ3～6m程度)	m ³						OK NO	
根切り	山留め付総掘り (山留め計画図無し)	m ³						OK NO	
	山留め付総掘り (山留め計画図有り)	m ³						OK NO	
	山留め付総掘り (SMWT工法)	m ³						OK NO	
	B種 (流用土)	m ³						OK NO	
埋戻し	A・C・D種 (購入土)	m ³						OK NO	
	つぼ・布張り	m ³						OK NO	
建設発生土処分	法付き総掘り	m ³						OK NO	
	山留め付総掘り	m ³						OK NO	
山留め	横矢板	m ²						OK NO	
	シートパイル	m ²						OK NO	

注) すき取り、根切りの総掘りにおける周長率(※1～4)は、以下による。

- ※1 : (建物外周総長さ+8m) ÷ 建築面積
- ※2 : (地下部分外壁総長さ+4.8m) ÷ 地下建築面積
- ※3 : (地下部分外壁総長さ+4m) ÷ 地下建築面積
- ※4 : (地下部分外壁総長さ+4×am) ÷ 地下建築面積 (ただし、aは山留め計画図による余幅(m))

3. 地業

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
-1 地業							
砂利地業	基礎・地中梁、土間下	m ³		1階床面積 × 砂利地業厚さ	() × () =	OK NO	
捨コンクリート	基礎・地中梁、ピット等	m ³		1階床面積 × 捨コンクリート厚さ	() × () × (0.3) ~ (0.7)	OK NO	
	地下部ベタ基礎	m ³		× (0.3) ~ (0.7)	= () ~ ()	OK NO	
-2 くい地業							
既製コンクリート杭	試験杭	本		設計図書より杭径、長さ、本数の確認	()	OK NO	
	本杭	本		設計図書より杭径、長さ、本数の確認	()	OK NO	

4. 躯体

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
-1 コンクリート							
躯体コンクリート	コンクリート総量	m ³		延べ面積 × (0.8) ~ (1.0)	() × 0.8 ~ 1.0 = () ~ ()	OK NO	
	基礎部	m ³		延べ面積 × (0.2) ~ (0.5)	() × 0.2 ~ 0.5 = () ~ ()	OK NO	
	軸部(地上部) 土間部を含む	m ³		延べ面積 × (0.5) ~ (0.8)	() × 0.5 ~ 0.8 = () ~ ()	OK NO	
	仕上コンクリート	m ³		建築面積 × (0.08)	() × (0.08) = ()	OK NO	
コンクリート足場	必要な場合	m ²		延べ床面積	()	OK NO	
-2 型枠							
型枠 (デッキプレート等を 含む)	型枠総量	m ²		延べ面積 × (4.0) ~ (5.5)	() × 4.0 ~ 5.5 = () ~ ()	OK NO	
	普通合板型枠	m ²		コンクリート総量 × (5.5) ~ (6.5)	() × 5.5 ~ 6.5 = () ~ ()	OK NO	
	打ち放し合板型枠(A種)	m ²		型枠総量 - (打ち放し合板型枠+その他)	() - () = ()	OK NO	
	打ち放し合板型枠(B種)	m ²		外壁打ち放し仕上	()	OK NO	
	打ち放し合板型枠(C種)	m ²		外壁打ち放し仕上、防水立上り等面積	() + () = ()	OK NO	
	デッキプレート等	m ²		内壁打ち放し仕上、吹付け等仕上面積	() + () = ()	OK NO	
	計			延べ面積	()	OK NO	
	型枠運搬	型枠総量	m ²	型枠総量 - (デッキプレート等)	() - () = ()	OK NO	
-3 鉄筋							
鉄筋	鉄筋総量(設計数量)	t		延べ面積 × (0.10) ~ (0.14)	() × 0.10 ~ 0.14 = () ~ ()	OK NO	
	鉄筋総量(設計数量)			コンクリート総量 × (0.13) ~ (0.16)	() × 0.13 ~ 0.16 = () ~ ()	OK NO	
	鉄筋総量(設計数量)	箇所		鉄筋総量 × (9) ~ (15)	() × 9 ~ 15 = () ~ ()	OK NO	
-4 鉄骨							
鉄骨	鉄骨総量(設計数量) (中・高層SRC)	t		延べ面積 × (0.08) ~ (0.12)	() × 0.08 ~ 0.12 = () ~ ()	OK NO	
	鉄骨総量(設計数量) (高層SRC)	t		延べ面積 × (0.07) ~ (0.14)	() × 0.07 ~ 0.14 = () ~ ()	OK NO	
	形鋼率※ 80%程度	m/t		鉄骨総量(設計数量) × (60) ~ (90)	() × 60 ~ 90 = () ~ ()	OK NO	
	形鋼率※ 60%程度	m/t		鉄骨総量(設計数量) × (70) ~ (120)	() × 70 ~ 120 = () ~ ()	OK NO	

注) 形鋼率※ = 形鋼総質量(t) / 鋼材総質量(t)

5. 外部仕上げ

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
-1 屋根仕上							
屋根防水層	平部 立上り部(H=400)	m ²		建築面積 ≧ 建築面積 × 周長率※ × 0.4	() × () × 0.4 =	OK NO	
防水押えレンガ積み	立上り部	m ²		≧ 建築面積 × 周長率※ × 0.32	() × () × 0.32 =	OK NO	
防水立上り保護	乾式工法	m		≧ 建築面積 × 周長率※	() × () =	OK NO	
-2 外壁仕上							
外壁上種別 (下記による)	外壁総面積 開口部(ガラス)面積 を含む	m ²		∈ (1) 延べ面積 × (0.7) ~ (1.2)	() × (0.7) ~ (1.2)	OK NO	
				≧ (2) 建物周長 × パラペットまでの高さ	() × () = () × () = () × () = 計	OK NO	
外壁タイル張り仕上	タイル張り(平面)	m ²		≧		OK NO	
外壁打放し吹付け 外壁打放し塗装仕上	タイル張り(役物)	m		∈ タイル(平面)面積 × (0.4) ~ (1.0)	() × 0.4 ~ 1.0 = ()	OK NO	
	下地モルタル	m ²		= タイル張り面積(役物を含む)	() + ()	OK NO	
その他仕上	吹付け、塗装面積	m ²		≧		OK NO	
	打放しB種型枠面積	m ²		= 吹付け、塗装面積		OK NO	
ガラス	外壁主仕上の総面積	m ²		≧		OK NO	
	ガラス総面積	m ²		∈ 外壁見付面積(開口部含む) × (0.1) ~ (0.3)	() × (0.1) ~ (0.3) = ()	OK NO	
-3 外部建具							
外部建具	金属製建具 窓・扉・シャッター等 ・アルミニウム製 ・鋼製、軽量鋼製 ・ステンレス製	か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
	同上金属製建具 総面積	m ²		∈ 外壁見付面積(開口部含む) × (0.1) ~ (0.3)	() × (0.1) ~ (0.3) = ()	OK NO	

注) 周長率※ = 建築面積に対する外壁総長さ/建築面積

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
壁仕上げ下地	軽量鉄骨間仕切 (65・90・100型)	m ²		各種ボード張り(LGS下地)総面積× (0.6)~(0.9)	() × (0.6) ~ (0.9) = () ~ ()	OK NO	
	タイル下地モルタル	m ²		(6)タイル張り面積	()	OK NO	
	モルタル面	m ²		(2)モルタル塗り(塗装下)面積	()	OK NO	
	各種ボード面	m ²		(4)各種ボード張り(塗装下)面積	()	OK NO	
	モルタル面	m ²		(3)モルタル塗り(壁紙張り下)面積	()	OK NO	
	各種ボード面	m ²		(5)各種ボード張り(壁紙張り下)面積	()	OK NO	
-3 天井仕上げ							
天井仕上げ	主仕上の総面積 (下記による)	m ²	(C)				
	(1)各種ボード張り (1重・2重張り) (塗装なし)	m ²					
	(2)各種ボード張り (1重・2重張り) (塗装あり)	m ²		延べ面積 × 0.95	(C) () × 0.95 =	OK NO	
	(3)吹付け等の直仕上 (その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
天井仕上げ下地	軽量鉄骨天井下地	m ²		(1)(2)各種ボード張り面積	()	OK NO	
表面仕上げ EP等塗装	石膏ボード、 ケイカル板等、 塗装仕上げボード面 総面積	m ²		(2)各種ボード張り面積	()	OK NO	
-4 開口部							
金属製建具	金属製建具 窓、扉・シャッター等 ・アルミニウム製 ・銅製、軽量銅製 ・ステンレス製	か所		設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
	同上塗装面積 ・銅製、軽量銅製	m ²		建具面積 × (2.5) ~ (3.5)	() × (2.5) ~ (3.5) = () ~ ()	OK NO	

7. 金属・仕上げユニット

名 称	摘 要	単 位	内 訳 数 量	チ ェ ッ ク 項 目	チ ェ ッ ク 数 量	判 定	確 認 事 項
(1) 外部金属							
-1 屋根廻り							
パラペット笠木		m		≧ 防水立上り部長さにより確認	()	OK NO	
ルーフトレン		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
堅どい		m		≧ ルーフドレン数 × (GL~屋根高さ)	() × () =	OK NO	
堅どい防露	内どい形式	m		≧ 堅どい長さ	()	OK NO	
丸罫		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
煙突金物		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
手すり		m		≧ ハラベットの笠木長さにより確認	()	OK NO	
-2 外壁廻り							
懸垂幕受け金物		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
タラップ		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
旗竿受け金物		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
(2) 内部金属							
-1 床							
床マンホール		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
床点検口		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
排水溝蓋		m		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
階段ノンスリップ	階段幅2.5m程度	m		∈ 階段室箇所 × (階数-1) × (50) ~ (65)	() × () × (50) ~ (60) = () ~ ()	OK NO	
-2 壁							
階段手すり	手すり子タイプ(内側)	m		∈ 階段室箇所 × (階数-1) × (8) ~ (11)	() × () × (8) ~ (11) = () ~ ()	OK NO	
	壁付きタイプ(外側)	m		∈ 階段室箇所 × (階数-1) × (20) ~ (26)	() × () × (20) ~ (26) = () ~ ()	OK NO	
便所手すり		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
タラップ	ピット等	か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
煙突廻り金物		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
-3 天井							
天井点検口		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
(3) 外部仕上ユニット							
煙突ライニング材		m		≧ 建物高さ+(2~5m)	() + () =	OK NO	
靴ふきマット	配水管・目皿	か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
(4) 内部仕上ユニット							
-1 全体							
案内板関係	室名れ・ピクグラ等	か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
ブラインド		m ²		≧ ガラス面積により確認	()	OK NO	
カーテン		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
ブラインドボックス		m		≧ A/Wの総幅により確認	()	OK NO	
カーテンレール		m		≧ カーテンの延べ幅により確認	()	OK NO	
書架		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
家具等		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
既製間仕切		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
可動間仕切		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
-2 水回り							
流し台		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
コンロ台		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
吊り戸棚		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
水切り棚		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
流し上部風切り		m		≧ (流し台+コンロ台)長さ×箇所数	() × () =	OK NO	
フード		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
-3 トイレ廻り							
トイレブース		m		≧ 設計図書による概数の確認	()	OK NO	
洗面台		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
鏡		か所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
甲板		m		≧ 洗面台長さ×箇所数	() × () =	OK NO	

数量算出チェックリスト
(改修工事用)

業 務 名 _____

施 設 名 _____

業務受注者名 _____

担 当 者 名

管 理 技 術 者 : _____

主任担当技術者（積算）: _____

担当技術者（積算）: _____

I. 基本事項

1. 基準類の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
基準類等	適用となる設計図書と基準類（適用年度）について確認したか。		
	設計図書		
	・ 図面及び仕様書		
	建築関係		
	・ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成 年版）		
	・ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成 年版）		
	・ 建築工事標準詳細図（平成 年版）		
	積算関係		
	・ 宮城県公共建築工事積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築工事標準単価積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築数量積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築工事内訳書標準書式（建築工事編）（平成 年版）		
	・ 公共建築工事見積書標準書式（建築工事編）（平成 年版）		

2. 数量基準

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
数量	数量は、設計数量とする。ただし、計画数量又は所要数量を求める場合は、数量積算基準に示す方法としたか。		
設計寸法	設計寸法は、設計図書に記載された寸法、記載された寸法から計測・計算することのできる寸法及び計測器具により読み取ることのできる寸法としたか。		
単位	計測・計算の単位は、原則としてm、㎡、m ³ 及びtとなっているか。 また、少量の施工が点在する場合の数量は、か所等の適切な単位としたか。		
端数処理	端数処理は、四捨五入としたか。		
計測寸法	計測寸法の単位はmとし、小数点以下第2位としたか。		

3. 適用の設計図書の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
工事名	工事名を確認したか。		
工事場所	工事場所を確認したか。		
工事種目	工事種目を確認したか。		
	建物・工事種目ごとに数量の拾い分けをしたか。		
工期	工期を確認したか。また、工期の始期が設定されている場合は始期も確認したか。		
	・工期：平成 年 月 日 (始期：平成 年 月 日)		
指定部分	指定部分の有無を確認したか。		
	・無し		
	・有り 工期：平成 年 月 日 範囲：		
予算区分	予算の区分による拾い分けが必要か発注者に確認したか。		
	・無し		
	・有り 範囲：		
関連工事	本工事以外の関連工事があるか発注者に確認したか。		
	・無し		
	・有り (・ 電気設備工事 ・ 機械設備工事 ・) 関連工事がある場合は、仮設の範囲を確認したか。		
発注範囲	本工事において(発注しない)別途工事部分があるか確認したか。		
	・無し		
	・有り 特記仕様書記載 (・ ・) ・有り 図面記載 (・ ・)		

II. 工事費の積算

1 一般事項

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
一般事項	施工量が少量または僅少の場合、施工場所が点在する場合及び工程上連続作業が困難な場合等の単価及び価格は、施工に最低限必要な材料・労務・機械器具等を考慮したか。		
	設計変更における基準は、当初設計における工事費積算時の基準としたか。		

2 仮設

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	工事条件に対して、工期が適正か確認したか。		
	任意仮設の項目について仮設計画図を作成し、適正か確認した上で算出したか。		
	指定仮設の項目について範囲等を確認して算出したか。		
	施工条件明示を確認して算出したか。		
	設計図書により必要に応じて盛り替えを算出したか。		
	VOC測定、アスベスト含有調査等の調査の有無を確認して算出したか。		
	増築がある場合、増築及び改修に区分して算出したか。		
外部足場	改修内容にあった足場想定図を作成し、適切か確認した上で算出したか。		
	改修及び撤去のみを区分して算出したか。		
	足場の種類（枠組幅等）により区分して算出したか。		
内部足場	改修内容（塗装塗り替え程度等）によって区分して算出したか。		
	階高によって足場種別を区分して算出したか。		
	部屋の全体を改修する場合は躯体又は準躯体の内法面積で算出したか。		
	部屋の一部を改修する場合は改修対象面積で算出したか。		
	壁改修のみの部分を区分して算出したか。		
階段仕上足場	「n階建」の建物において階段室床面積×(n-1)として算出したか。		
シャフト内足場	各階シャフトの合計の床面積として算出したか。		
墨出し	複合改修及び個別改修に区分して算出したか。		
	部屋の全体を改修する場合は躯体又は準躯体の内法面積とし、部屋の一部を改修する場合は改修対象範囲の面積で算出したか。		
養生、整理清掃・後片付け	複合改修、個別改修、塗装塗り替え程度及び搬出入通路に区分して算出したか。		
仮設間仕切り	仮設間仕切りの有無、仕様及び位置を確認したか。		
災害防止	防護柵、金網張り、シート張り、小幅ネット及び防音パネルは必要の有無を確認して算出したか。		

3 撤去

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	アスベスト含有仕上げ材の指定の有無を確認し、区分して算出したか。		
	当該壁と取り合う床及び壁の撤去範囲について、設計図書で確認したか。		
	撤去材の搬出方法について設計図書で確認したか。		
	カッター入れは、設計図書により算出したか。		
コンクリート撤去	鉄筋コンクリート及び無筋コンクリートを区分して算出したか。		
	撤去工法(コンクリートブレーカー・人力又は併用)により区分して算出したか。		
防水撤去	防水層、保護コンクリート等に区分して面積又は体積を算出したか。		
床撤去	アスベスト含有ビニル床タイル及びその他ビニル床タイルに区分して算出したか。		
	アスベスト含有ビニル床シート及びその他ビニル床シートに区分して算出したか。		
	合成樹脂塗床類の除去工法を設計図書で確認して算出したか。		
壁撤去	一重張り及び二重張りに区分しさらに、石こうボード、アスベスト含有ボード及びその他ボードに区分して算出したか。		
天井撤去	重ね枚数によって区分しさらに、石こうボード、アスベスト含有ボード及びその他ボードに区分して算出したか。		
建具撤去	材種及び形状寸法による箇所数を数量として算出したか。		
	R C・C B壁に取り付く撤去建具の建具周囲はつりを算出したか。		
発生材運搬	発生材の種別ごとに区分して算出したか。		
	運搬距離及びダンプトラックの規格ごとに区分して算出したか。		
	敷地状況、発生量等を勘案して算出したか。		
発生材処分	発生材の種別ごとに区分して算出したか。		

4 耐震改修及び躯体

4-1 土工・地業

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項 (土工)	根切り基準線の位置を確認して算出したか。		
	工法及び仕様は設計図書の通りか。		
	土工数量の流用計画を作成し、算出した数量に過不足が無い確認したか。		
根切り	場外搬出までに小運搬及び再積み込みが必要か確認したか。		
埋戻し	埋戻しの数量=根切りの数量-(現状G L以下の基礎又は地下構築物(ピット含む)の体積+砂利地業の体積+捨てコンクリートの体積)を確認したか。		
床付け	基礎、基礎梁下、耐圧盤下等の地業面積で算出したか。(小規模土工を除く機械施工を対象とする)		
	盛土部分は除いて算出したか。		
仮置き土	根切り周辺部に仮置きできるか確認し、できない場合は運搬距離ごとに区分し算出したか。		
建設発生土	建設発生土の数量=根切りの数量+すきとりの数量-(埋戻しの数量+盛土の数量)を確認したか。		
	運搬距離及びダンプトラックの規格ごとに区分して算出したか。		
	処分指定場所ごとに算出したか。		
共通事項 (地業)	材種、規格、工法等に区分し算出したか。		
砂利地業	設計図書に範囲の記載がない場合、躯体側面より0.1mの出幅を加えて算出したか。		
割石地業	設計図書に範囲の記載がない場合、躯体側面より0.1mの出幅を加えて算出したか。		
床下防湿層敷き	基礎梁際のみ込みを確認して算出したか。		
床下断熱材敷き	基礎梁際のみ込みを確認して算出したか。		

※大規模の場合は、営繕工事積算チェックリスト(新営工事用)を参照する。

4-2 鉄筋

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	規格、形状、寸法等に区分して設計数量で算出したか。		
鉄筋	所要数量を求めるときに、割増率（4%）を確認して算出したか。		
スクラップ控除	鉄筋の割増数量（所要数量－設計数量）に対し、スクラップを70%として算出したか。		
あと施工アンカー	あと施工アンカーは種別ごとに区分して算出したか。		
割裂補強筋	割裂補強筋は、種別ごとに区分して算出したか。		

※大規模の場合は、営繕工事積算チェックリスト（新営工専用）を参照する。

4-3 コンクリート

チェック項目	チェック内容	確認	
		仕	数
コンクリート	集計表は、①部位別、②階別、③部材別及び④打設別に作成したか。		
	コンクリート種別ごとに、設計強度、スランプなどにより区分して算出したか。		
	構造体強度補正の対象となるコンクリートの補正值及び補正期間を確認したか。		
	鉄骨によるコンクリートの欠除を行い、算出したか。		
	壁・柱・梁で外部に面する打放しコンクリート部分の増打ち及び意匠上の増打ちの見落としはないか。		
コンクリートブロック壁の立上がり壁及び下がり壁の見落としはないか。			
グラウト材	流込み工法の場合は、数量を算出したか。		
打設手間	建物内及び屋上の設備基礎等は、小型構造物として算出したか。		
専用仮設	配管型ポンプ車の場合、コンクリート足場を算出したか。		

※大規模の場合は、営繕工事積算チェックリスト（新営工専用）を参照する。

4-4 型枠

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
型枠	普通合板型枠、打放し合板型枠、曲面型枠等を材料、工法、コンクリート打設部位等に区分して算出したか。		
	普通合板型枠と打放し合板型枠を重複して算出していないか。		
	必要に応じて圧入用型枠を算出したか。		
	建物内、屋上の設備基礎等で後打ちが想定される部位は、区分して算出したか。		
打放し面補修	打放し面ごとに算出したか。		
コーン処理	使用部位を設計図書で確認して算出したか。		
型枠目地棒	打継目地、化粧目地、ひび割れ誘発目地及び大面木の形状ごとに算出したか。		

※大規模の場合は、営繕工事積算チェックリスト（新営工専用）を参照する。

4-5 鉄骨

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	規格、形状、寸法等ごとに区分して設計数量で算出したか。		
鋼材	所要数量を求める時に、割増率を確認して算出したか。		
工場加工組立	設計数量(現場本締ボルトは含まず)で算出したか。		
スクラップ控除	鋼材の割増数量(所要数量-設計数量)に対し、スクラップを70%として算出したか。		
ボルト類	形状から締め付け長さが適正か確認して算出したか。		
耐火被覆	耐火性能ごとに区分して算出したか。		
	被覆範囲を確認して算出したか。		
溶接	溶接延長換算表により溶接長さを算出及び計上したか。		
鉄骨工場塗装	塗装係数を使用した場合に、その数値は適切か。		
主体鉄骨建方	設計数量(現場本締ボルトは含まず)で算出したか。		
	建方方法を確認したか。		

※大規模の場合は、**営繕工事積算チェックリスト(新営繕専用)**を参照する。

5 防水改修

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	材種別に外部及び内部の区分、立上り及び立下りに区別して算出したか。		
	材料の搬入方法を確認したか。		
改修工法	改修工法の確認をしたか。		
仮設	墨出しは、水勾配の調整を必要とする改修の場合に計測・計算対象とし、その数量は水勾配を調整する面積としたか。		
	養生・整理清掃後片付け、全面改修の場合の数量は改修防水層の平場面積としたか。		
新設防水層	防水層の種類及び種別ごとに区別して算出したか。		
	下地の補修の有無を確認して算出したか。		
	防水層の保護(押えコンクリート等)が必要か確認し、算出したか。		
シーリング	種類、施工箇所及び目地巾を確認して算出したか。		
伸縮目地	種別ごとに算出したか。		
成形緩衝材	必要の有無を確認して算出したか。		
入り隅処理	必要の有無を確認して算出したか。		
	成形キャント材(防水)とモルタル(左官)の分けを確認し、区分して算出したか。		
脱気装置	必要の有無を確認して算出したか。		

5 防水改修

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
とい	材質、形状及び径ごとに区分して算出したか。		
鋼管とい保温	といの部位及び径ごとに、一般の屋内露出部、天井内等、厨房・浴室内等に区分したか。		
鋼管とい塗装	といの材質及び径ごとに算出したか。		
鋼管とい掃除口	といの部位及び径ごとに区分して算出したか。		
	床上及び床下に区分して算出したか。		
ルーフトレン	材質、径、形式(縦引、横引及び中継用)及び防水仕様ごとに区分して算出したか。		
アルミニウム製笠木・水切り金物	寸法、形状及び表面仕上げごとに算出したか。		
	周長を直線部として算出した場合は、コーナー加算も算出したか。		

6 外壁改修

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
墨出し	外壁モルタル塗り及び外壁タイル張りを撤去し、新たに仕上げをする場合に算出したか。 (吹き付け仕上げ類の場合は対象としてないこと)		
養生、整理清掃後片付け	外壁面の水平長さに2mを乗じた面積としたか。		
施工数量調査	打放し仕上げ、モルタル塗り仕上げ、タイル張り仕上げ及び塗り仕上げに区分して算出したか。		
既存塗膜等の除去	工法を設計図書にて確認して算出したか。		
ひび割れ部改修工法	外壁仕上げ、工法及びひび割れ幅の種類別に算出したか。		
欠損部改修工法	工法及び注入材料の種類別に区分して算出したか。		
	モルタル塗り厚2.5mmを超える場合の補強が必要か確認し、必要な場合は算出したか。		
浮き部改修工法	工法、一般部及び指定部ごとに区分して算出したか。		
目地改修工法	工法、材種及び目地寸法ごとに区分して算出したか。		
壁タイル張り	密着張り及び改良積上張りごとに区分して算出したか。		
	平面及び役物を区分して算出したか。		
壁ユニットタイル	小口未満はモザイクタイル張り、2.5mm角を超え小口未満はマスク張りに区別して算出したか。		
仕上塗材仕上げ	仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法ごとに算出したか。		

7 内装改修、塗装改修、建具改修

7-1 内部仕上げ

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	施工計画を確認し工程ごとに算出したか。 材料の種類別に部位、材質、形状、寸法、工法等に区分して算出したか。		
床			
共通	床仕上げの合計が延べ面積を超えていないか確認したか。		
床清掃	既存コンクリート及びモルタルの上にビニル床材（塗り床含む）仕上げを新設又は塗り床の塗り替え等の場合に算出しているか。		
床けれん	設計図書に記載がある場合のみ、算出したか。		
左官			
床コンクリート直均し仕上げ	表面仕上げごとに区分して算出したか。 フリーアクセスフロア及び二重床の場合はコンクリートの仕上り平たんさにより区分して算出したか。		
下地モルタル塗り	張り物、敷物、防水下地及びタイル張りの主仕上げごとに算出したか。		
セルフレベリング材塗り	内装の張り物下地に適用し、床コンクリート直均し仕上げ等との重複はないか。		
壁			
共通	下地張りの有無及び工法の確認をしたか。		
壁清掃	既存コンクリート及びモルタルの上に壁紙等の仕上げを新設する場合、算出しているか。		
壁けれん	設計図書に記載がある場合のみ、算出したか。		
既製コンクリート			
コンクリートブロック積み	ブロックの種類（適用箇所及び区分）を確認したか。 片面化粧及び両面化粧ごとに算出したか。		
まぐさコンクリート	断面ごとの箇所数で算出したか。		
A L Cパネル			
A L Cパネル	パネル間の目地材の施工区分を確認し、見積りに含まれない場合は算出したか。		
	他部材との取り合い部の目地材は算出したか。		
	表面仕上げ（工場又は現場）の確認をし、表面材による拾い分けをしたか。 2次ファスナーの見落としはないか。		
押出成形セメント版			
押出成形セメント版	パネル間の目地材の施工区分を確認し、見積りに含まれない場合は算出したか。		
	他部材との取り合い部の目地材は算出したか。		
	表面仕上げ（工場又は現場）の確認をし、表面材による拾い分けをしたか。 2次ファスナーの見落としはないか。		
タイル			
内装タイル張り	役物類がある場合、タイル面積から役物の面積を控除したか。		
壁ユニットタイル	タイルの大きさにより工法を確認して算出したか。		
壁タイル接着剤張り	施工箇所により有機質接着剤の種類をタイプⅠ・Ⅱに区分して算出したか。		
金属			
軽量鉄骨壁下地	下地張りの有無を確認してスタッドの間隔ごとに算出したか。 梁、スラブ下あるいは天井面まで設置するか確認して算出したか。		
壁見切縁	材種及び形状ごとに算出したか。		
左官			
下地モルタル塗り	各種タイル張り工法別に算出したか。		
モルタル塗り	はけ引き及び金ごての仕上げ別に算出したか。		
仕上塗材仕上げ	仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法ごとに算出したか。		

7-1 内部仕上げ

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
壁			
塗装			
下地調整	下地の種類ごとに下地調整種別を確認したか。		
塗装係数	建具類、鉄骨などに採用した係数は妥当か。		
さび止め塗料塗り	鉄鋼面及び亜鉛めっき面ごとに算出したか。		
各種塗装仕上げ	一般面、見上げ面及び仕様の種別ごとに算出したか。		
耐候性塗料塗り	鉄鋼面において、下地処理等の確認をしたか。		
内外装			
ボード張り	仕上種別、下地種別、厚さ等を確認して算出したか。		
遮音壁	遮音シール材の仕様を確認して算出したか。		
断熱材張り・打ち込み	種類及び施工箇所を確認して算出したか。		
天井			
共通	天井仕上げの合計が延べ面積を超えていないか確認したか。		
	下地張りの有無の確認及び仕様の確認をしたか。		
金属			
軽量鉄骨天井 下地	天井仕上げの種類を確認して野縁の間隔ごとに算出したか。		
	既存の埋込インサートの使用の有無を確認したか。無しの場合、あと施工アンカーを算出したか。		
	振れ留め加算は必要か確認して算出したか。		
	天井のふところ高さを考慮して算出したか。		
天井廻縁	材種ごとに算出したか。		
下がり壁見切縁	材種ごとに算出したか。		
塗装			
下地調整	下地の種類ごとに下地調整種別を確認したか。		
塗装係数	建具類、鉄骨などに採用した係数は妥当か。		
さび止め塗料塗り	鉄鋼面及び亜鉛めっき面ごとに算出したか。		
各種塗装仕上げ	一般面、見上げ面及び仕様の種別ごとに算出したか。		
耐候性塗料塗り	鉄鋼面において、下地処理等の確認をしたか。		
内外装			
ボード張り	仕上種別、下地種別、厚さ等を確認して算出したか。		
断熱材張り・打ち込み	種類及び施工箇所を確認して算出したか。		
その他			
木工			
構造材・小割材	断面部材が、ひき立て寸法又は仕上がり寸法で示しているか確認したか。		
	材工分離の場合、材料は所用数量で算出したか。		
造作材	断面部材が、ひき立て寸法又は仕上がり寸法で示しているか確認したか。		
	材工分離の場合、材料は所用数量で算出したか。		
銘木(板材、縁甲板)	本数、枚数又は面積で算出したか。		
押入れ	押入れのせっこうボードは、別途算出したか。		
金属			
あと施工アンカー	金属系及び接着系を区分して算出したか。		
	径別及び施工部位別に区分して算出したか。		
手摺り	斜部手すりは、水平投影長さではなく手すり長さで算出したか。		

7-2 木製建具

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	建具キープランと建具表の数量のくい違いはないか確認して算出したか。		
	建具面の仕上げ及び塗装の有無を確認したか。		
ふすま	上張りによる区別をしたか。		

7-3 金属製建具

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	建具キープランと建具表の数量のくい違いはないか確認して算出したか。		
	種別（耐風圧、気密及び水密性）、枠見込み、表面処理などの性能・仕様を確認したか。		
	主仕上の材質、形状等により区分して算出したか。		
	同じ符号で枠、金物等の違いがある場合は、確認して算出したか。		
	焼き付け塗装の場合は、塗装計測対象外としたか（建具見積に含めるため）。		
アルミニウム製建具	網戸の設置の有無を確認して算出したか。		
	建具と水切間のシーリングを建具見積りに含む場合は、計上対象外としたか。		
	内部建具がある場合、外部建具と区分して算出したか。		
自閉式上吊り引戸装置	装置付建具は、その他建具と区分して算出したか。		
自動ドア開閉装置	数量計上の見落としはないか。		
建具改修工法	工法を確認したか。		
かぶせ工法	新設建具枠断面寸法が明記されているか。		
撤去工法	図面で引き抜き工法又ははつり工法の確認をしたか。		
	撤去範囲の確認をしたか。		
開口新設部建具	壁の開口工法及び壁の補修工法を確認したか。		
建具周囲シーリング	建具内法寸法による周長で算出したか。		
	断面（目地幅）寸法ごとに区分して算出したか。		
	シーリング材の種類を、被着体の組み合わせにより確認したか。		
枠廻りモルタル充填	建具内法寸法による周長で算出したか。		
	下枠、くつずり及び目地棒が無い場合、計測範囲を確認し算出したか。		
	外部及び内部に区分して算出したか。		

7-4 ガラス

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
共通事項	材種、形状、規格寸法、厚さ及び留め材ごとに算出したか。		
	特殊寸法及び特殊形状は寸法ごとに単位を枚として算出したか。		
	小口処理等の特殊加工を必要とする箇所が有るか確認して算出したか。		
ガラス用フィルム張り	仕様を確認して算出したか。		
熱線反射ガラス	熱線反射ガラスの映像調整が必要か確認して算出したか。		
強化・複層・合わせガラス	特寸 2.0m ² 以下、4.0m ² 以下及び6.0m ² 以下ごとに算出したか。		
その他板ガラス	特寸 2.18m ² 以下、4.45m ² 以下及び6.81m ² 以下ごとに算出したか。		

7-5 仕上げユニット

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
棚、流し台、ユニットバス、鏡	材種、規格、形状及び寸法ごとに箇所数を算出したか。		
スクリーン、隔壁、カウンター	材種及び規格ごとに算出したか。		
表示板、換気孔、ルーバー、床下点検口	材種、規格、形状及び寸法ごとに箇所数を算出したか。		
カーテン、ブラインド	材種、規格、形状及び寸法ごとに箇所数を算出したか。		
カーテンボックス	材種、形状及び寸法ごとに長さを算出したか。		
移動間仕切 可動間仕切	材種及び規格ごとに面積又は箇所数を算出したか。		
	遮音性の特記がある場合は、設計図書により天井内ふさを算出したか。		
フリーアクセスフロア	スロープ・ボーダーの見落としはないか。		
造り付け家具	設置する面の仕上を控除したか。		

8 環境配慮改修

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
アスベスト含有成形板撤去			
共通事項	アスベスト含有仕上げ材の指定の有無を確認し、区分して算出したか。		
	撤去の方法について、設計図書で確認して算出したか。		
仮設	養生方法について、設計図書で確認して算出したか。		
	足場について、専用足場となるか確認して算出したか。		
アスベスト含有吹付け材撤去			
共通事項	施工方法、施工手順及び区画を設計図書で確認したか。		
	見積収集用の項目及び数量を算出したか。		
仮設	施工手順及び区画ごとに、養生、整理清掃後片付け及び足場を算出したか。		
安全衛生設備機器等	セキュリティハウス、負圧除じん機、真空掃除機、消耗品等の必要な項目が計上されているか。（見積書の確認）		
除去処理	部位、厚みごとに施工手順及び区画を考慮して除去面積を算出したか。		
	除去アスベスト処理の方法について、設計図書で確認したか。（密封又は固化）		
アスベスト粉塵濃度測定	測定点数は、設計図書で確認し算出したか。		
	報告書についても項目が計上されているか。		
廃棄物処理	廃棄物積み、運搬及び処分項目が計上されているか。		
屋上緑化			
共通事項	仕様等を設計図書で確認したか。		
	設備工事との区分けについて、確認対象となる数量を算出したか。		
	搬入方法を設計図書で確認し、適切に計上したか。		
仮設	養生及び整理清掃後片付けを、算出したか。		
屋上緑化システム	樹木、植え込み手間、支柱等は、「新営工事用 8 植栽」に準じて算出したか。		
屋上緑化軽量システム（基盤式）	樹木及び基盤を含めユニットとして算出したか（1000mm×1000mm ○か所 など）		

9 発生材処理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
発生材運搬	発生材の種別ごとに区分して算出したか。		
	運搬距離及びダンプトラックの規格ごとに区分して算出したか。		
	敷地状況、発生量等を勘案して、算出したか。		
発生材処分	発生材の種別ごとに区分して算出したか。		

10 外構

営繕工事積算チェックリスト（新営繕工事用）を参照する。

数量チェックシート
(改修工事用)

業 務 名 _____

施 設 名 _____

業務受注者名 _____

担 当 者 名

管 理 技 術 者 : _____

主任担当技術者（積算） : _____

担当技術者（積算） : _____

数量チェックシート（工事費内訳書チェック項目）

改修工事

チェック項目	チェック内容	確認
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げ改修では、撤去及び改修面積の数量がほぼ同一となるのが一般的であるため整合について確認を行う。 	
1 直接仮設	<ul style="list-style-type: none"> ・墨出し、養生及び整理清掃後片付けの面積は、床又は天井改修面積との比較により確認を行う。 ・外部足場面積は、外壁改修面の建物高さ及び周長により概略面積を算出し確認を行う。 ・内部足場面積は、天井改修面積との比較により確認を行う。 	
2 防水改修	<ul style="list-style-type: none"> ・全面改修の場合、建築面積との比較により確認を行う。 	
3 外壁改修	<ul style="list-style-type: none"> ・全面改修の場合、延べ面積との比較により確認を行う。 ・隠蔽部分の改修項目については、数量明示による。 	
4 建具改修	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図書により箇所数の確認を行う。 	
5 内装改修	<ul style="list-style-type: none"> ・改修する室及び部位が個々に違うため主に仕上げ部位ごとの主仕上げ、表面処理及び下地面積の整合を確認する。 また、直接仮設との面積の整合を確認する。 	

改修工事

1 直接仮設

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
墨出し	保護防水改修のみ	m ²		≡ 改修面積	()	OK NO	
	外壁タイル張替 モルタル塗替等改修	m ²		≡ 改修面積	()	OK NO	
	内装改修 (個別・複合改修)	m ²		≡ 床又は天井改修総面積	() 又は ()	OK NO	
	防水改修	m ²		≡ 建築面積	()	OK NO	
養生 整理清掃後片付け	外装改修	m ²		≡ (建物周長+8m) × 2m	()	OK NO	
	内装改修 (個別・複合改修)	m ²		≡ 床又は天井改修総面積	() 又は ()	OK NO	
外部足場		m ²		≡ (建物周長+8m) × パラペットまでの高さ	(+ 8m) × ()	OK NO	
内部足場	内装改修 (個別・複合改修)	m ²		≡ 天井改修総面積	()	OK NO	

2 防水改修

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
2-1 撤去							
屋根防水層	平部	m ²		≡ 改修面積又は建築面積	() 又は ()	OK NO	
	立上り部(H=400)	m ²		≡ 改修面積	()	OK NO	
防水押えレンガ積み	立上り部	m ²		≡ 改修面積	()	OK NO	
防水立上り保護	乾式工法	m		≡ 改修長さ	()	OK NO	
仕上コンクリート	防水押え	m ²		≡ 改修面積	()	OK NO	
2-2 改修							
屋根防水層	平部	m ²		≡ 改修面積又は建築面積	() 又は ()	OK NO	
	立上り部(H=400)	m ²		≧ 建築面積 × 周長率 ^{**} × 0.4	() × () × 0.4 =	OK NO	
防水押えレンガ積み	立上り部	m ²		≧ 建築面積 × 周長率 ^{**} × 0.32	() × () × 0.32 =	OK NO	
防水立上り保護	乾式工法	m		≧ 建築面積 × 周長率 ^{**}	() × () =	OK NO	
仕上コンクリート	防水押え(厚さ80)	m ³		≡ 改修面積 × (0.08)	() × (0.08) =	OK NO	

注) 周長率^{**} = 建築面積に対する外壁総長さ/建築面積

3 外壁改修

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
3-1 撤去							
タイル張り	下地モルタル共	m ²		改修面積	()	OK NO	
モルタル塗り		m ²		改修面積	()	OK NO	
吹付け仕上	既存塗膜等の除去	m ²		改修面積	()	OK NO	
その他仕上		m ²		改修面積	()	OK NO	
3-2 改修							
施工数量調査		m ²		外壁改修面積又は明示数量	() 又は ()	OK NO	
下地補修	クラック改修	m		明示数量		OK NO	
	欠損部改修	箇所				OK NO	
	浮き部改修	m ²				OK NO	
	高圧洗浄	m ²				OK NO	
外壁仕上 (下記による)	全面外壁改修面積	m ²		外壁改修面積又は明示数量	() 又は ()	OK NO	
外壁タイル張り仕上	タイル張り(平面)	m ²		延床面積 × (0.5) ~ (1.3)	() × (0.5) ~ (1.3)	OK NO	
	タイル張り(役物)	m		= () ~ ()	= () ~ ()	OK NO	
	下地モルタル	m ²		タイル(平面)面積 × (0.4) ~ (1.0)	() × 0.4 ~ 1.0 = ()	OK NO	
	吹付け、塗装面積	m ²		タイル張り面積(役物を含む)	() + ()	OK NO	
外壁吹付け 外壁打放し塗装仕上	下地調整面積	m ²		吹付け、塗装面積	()	OK NO	
	その他仕上	m ²				OK NO	

4 建具改修

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
4-1 撤去							
外部建具	金属製建具 (窓、扉、シャッター等) ・アルミニウム製 ・鋼製、鋼製軽量 ・ステンレス製	箇所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
内部建具	金属製建具 (窓、扉、シャッター等) ・アルミニウム製 ・鋼製、鋼製軽量 ・ステンレス製	箇所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
ガラス	ガラス総面積	m ²		≒ 建具面積 ・アルミニウム製 ・ステンレス製	()	OK NO	
4-2 改修							
外部建具	金属製建具 (窓、扉、シャッター等) ・アルミニウム製 ・鋼製、鋼製軽量 ・ステンレス製	箇所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
内部建具	金属製建具 (窓、扉、シャッター等) ・アルミニウム製 ・鋼製、鋼製軽量 ・ステンレス製	箇所		= 設計図書による箇所数の確認	()	OK NO	
建具塗装	塗装面積 ・鋼製、鋼製軽量	m ²		∈ 新設建具面積 × (2.5) ~ (3.5)	() × (2.5) ~ (3.5) = () ~ ()	OK NO	
建具塗装替え	塗装面積 ・鋼製、鋼製軽量	m ²		∈ 既存建具面積 × (2.5) ~ (3.5)	() × (2.5) ~ (3.5) = () ~ ()	OK NO	
ガラス	ガラス総面積	m ²		≒ 建具面積 ・アルミニウム製 ・ステンレス製	()	OK NO	

5 内装改修
5-1 床改修

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
5-1-1 撤去							
床仕上げ (主仕上げ)	床仕上げの総面積 (下記による)	m ²		≦	()	OK NO	
	(1)床張り物撤去	m ²					
	(2)床張り物撤去 (下地モルタル共)	m ²					
	(3)タイル張り (下地モルタル共)	m ²					
	(4)モルタル塗り (その他)	m ²					
床仕上げ下地	張り物下地モルタル	m ²		=	()	OK NO	
	フリーアクセスフロア (その他)	m ²		=	()	OK NO	
	(その他)	m ²		=			
	(その他)	m ²		=			
5-1-2 改修							
床仕上げ (主仕上げ)	床仕上げの総面積 (下記による)	m ²		≦	()	OK NO	
	(1)ビニルタイル	m ²					
	(2)ビニルタイル (下地モルタル共)	m ²					
	(3)ビニルシート	m ²					
	(4)ビニルシート (下地モルタル共)	m ²					
	(5)カーペット類	m ²					
	(6)タイル張り	m ²					
	(7)モルタル塗り (その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
床仕上げ下地	張り物下地モルタル	m ²		=	()	OK NO	
	タイル下地モルタル	m ²		=	()	OK NO	
	フリーアクセスフロア (その他)	m ²		=	()	OK NO	
	(その他)	m ²		=			
	(その他)	m ²		=			

5-2 壁改修

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
5-2-1 撤去							
壁仕上げ (主仕上げ)	壁仕上げの総面積 (下記による)	m ²		改修主仕上げ総面積との 整合のチェック	()	OK NO	
	(1)モルタル塗り	m ²					
	(2)モルタル塗り (壁紙張り下)	m ²					
	(3)各種ボード張り (1重・2重張り) (素地・塗膜下)	m ²					
	(4)各種ボード張り (1重・2重張り) (壁紙張り下)	m ²					
	(5)タイル張り (下地モルタル共)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(6)壁紙張り撤去 (モルタル面)	m ²			(2)モルタル塗り(壁紙張り下)面積	()	OK NO
	(7)壁紙張り撤去 (各種ボード面)	m ²			(4)各種ボード張り(壁紙張り下)面積	()	OK NO
(その他)	m ²						
(その他)	m ²						
既存壁表面仕上げ							

5-2 壁改修

名称	摘要	単位	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
5-2-2 改修							
壁仕上げ(主仕上げ)	壁仕上げの総面積 (下記による)	m ²		撤去主仕上げ総面積との 整合のチェック	()	OK NO	
	(1)モルタル塗り	m ²					
	(2)モルタル塗り (塗装下)	m ²					
	(3)モルタル塗り (壁紙張り下)	m ²					
	(4)各種ボード張り (1重・2重張り)	m ²					
	(5)各種ボード張り (塗装下)	m ²					
	(6)各種ボード張り (壁紙下)	m ²					
	(7)EP等塗り (モルタル面)	m ²					
	(8)EP等塗り (各種ボード面)	m ²					
	(9)壁紙張り (モルタル面)	m ²					
	(10)壁紙張り (各種ボード面)	m ²					
	(その他)	m ²					
壁仕上げ下地	軽量鉄骨間仕切 (65・90・100型)	m ²		=	() × (0.6) ~ (0.9) = () ~ ()	OK NO	
	タイル下地モルタル	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
新設壁表面仕上げ	EP等塗り (モルタル面)	m ²		=	()	OK NO	
	EP等塗り (各種ボード面)	m ²					
	壁紙張り (モルタル面)	m ²					
	壁紙張り (各種ボード面)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
既存壁表面仕上げ	EP等塗り (モルタル面)	m ²		=	()	OK NO	
	EP等塗り (各種ボード面)	m ²					
	壁紙張り (モルタル面)	m ²					
	壁紙張り (各種ボード面)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					
	(その他)	m ²					

5-3 天井改修

名称	摘要	内訳数量	チェック項目	チェック数量	判定	確認事項
5-3-1 撤去						
天井仕上(主仕上げ)	天井主仕上げの 総面積(下記による)	m ²	改修主仕上げ総面積との 整合のチェック	=	OK NO	
	(1)各種ボード張り (1重張り)	m ²				
	(2)各種ボード張り (2重張り)	m ²				
	(3)各種ボード張り (1重・2重張り) (壁紙張り下)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
天井仕上下地	軽量鉄骨天井下地	m ²	(1)(2)各種ボード張り面積	=	OK NO	
既存天井表面仕上げ	(4)EP等除去 (各種ボード面)	m ²	(3)各種ボード張り(壁紙張り下)面積	=	OK NO	
	(5)壁紙等除去 (各種ボード面)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
5-3-2 改修						
天井仕上(主仕上げ)	天井主仕上げの 総面積(下記による)	m ²	撤去主仕上げ総面積との 整合のチェック	=	OK NO	
	(1)各種ボード張り (1重・2重張り) (塗装なし)	m ²				
	(2)各種ボード張り (1重・2重張り) (塗装あり)	m ²				
	(3)各種ボード張り (壁紙張り下)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
天井仕上下地	軽量鉄骨天井下地	m ²	(1)(2)各種ボード張り面積	=	OK NO	
新設天井表面仕上げ	(4)EP等塗り (各種ボード面)	m ²	(2)各種ボード張り(塗装あり)面積	=	OK NO	
	(5)壁紙等張り (各種ボード面)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				
既存天井表面仕上げ	(6)EP等塗替 (各種ボード面)	m ²	撤去(5)壁紙等除去面積	=	OK NO	
	(7)壁紙等張替 (各種ボード面)	m ²				
	(その他)	m ²				
	(その他)	m ²				

電気設備工事編

数量算出チェックリスト

業 務 名 _____

施 設 名 _____

業務受注者名 _____

担 当 者 名

管 理 技 術 者 : _____

主任担当技術者（積算） : _____

担当技術者（積算） : _____

I 基本事項

1. 基準類の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
基準類等	適用となる設計図書と基準類（適用年度）について確認したか。		
	設計図書		
	・ 図面及び特記仕様書		
	・ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成 年版）		
	・ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成 年版）		
	・ 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（平成 年版）		
	積算関係基準類		
	・ 宮城県公共建築工事積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築工事標準単価積算基準（平成 年版）		
	・ 公共建築設備数量積算基準（平成 年版）		

2. 数量基準

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
数量	数量は、原則として設計数量とする。ただし、計画数量を求める場合は、公共建築設備数量積算基準に示す方法としたか。		
設計寸法	設計寸法は、設計図書に記載された寸法、記載された寸法から計算によって得られる寸法及び計測により読み取ることのできる寸法としたか。		
単位	長さ、面積、体積及び質量の単位は、原則としてm、㎡、m³、kg及びtとし、機器の単位は、基、面、台、個、組等としたか。また少量の改修が点在する場合の数量は、か所等の適切な単位としたか。		
端数処理	端数処理は、四捨五入としたか。		
有効数値	長さは、小数点以下第1位とし、面積、体積及び質量は、小数点以下第2位としたか。		
工事費内訳書の数量	原則として小数点以下第1位を四捨五入し、整数としたか。		

3. 適用の設計図書の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
工事名	工事名を確認したか。		
工事場所	工事場所を確認したか。		
工事種目	工事種目を確認したか。		
工事科目	工事科目を確認したか。		
指定部分	指定部分の有無を確認したか。		
	・無し ・有り 範囲：		
予算区分	予算の区分による拾い分けが必要か発注者に確認したか。		
	・無し ・有り 範囲：		
関連工事	本工事以外の関連工事があるか発注者に確認したか。		
	・無し ・有り (・ 建築工事 ・ 機械設備工事 ・)		
発注範囲	関連工事がある場合は、仮設の範囲を確認したか。		
	本工事において(発注しない)別途工事部分があるか確認したか。		
	・無し ・有り 特記仕様書記載 (・ ・) ・有り 図面記載 (・ ・)		
機器取付け	機器取付高さを確認したか。		
配線器具	フラッシュプレートの材質を確認したか。(製)		
配管塗装	金属管の塗装の要否について確認したか。 ・要 (・ 屋外の配管 ・) ・ 不要		
接地工事	接地極の規格、数量について確認したか。		
足場	足場を確認したか。		
	・別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。 ・本工事で設置する。		
養生	養生範囲を確認したか。		
	・無し ・有り 室名：		
はつり補修	はつり補修の有無及び工法について確認したか		
	・無し ・有り (・ 手はつり ・ ダイヤモンドカッター)		
建設発生土の処理	建設発生土の処理について確認したか。		
	・構内敷きならし ・ 構外搬出処理		
発生材の処理	発生材処理の有無について確認したか。		
	・無し (別途工事含む)		
	・有り (・ コンクリート ・ コンクリート及び鉄から成る建設資材 ・ 木材 ・ アスファルト、コンクリート ・)		
断面図	階高を確認したか。		
	天井高を確認したか。		
平面図	縮尺を確認したか。		
外構図	凡例に記載があるか確認したか。積算上必要な名称が記載されているか。		
	埋設深さを確認したか。 掘削・埋戻しの工事範囲の確認をしたか。		

II. 工事費の積算（設計図）

1. 電力設備

（1）電灯設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
LED照明器具	器具の形状、定格全光束、LED制御装置、材質、その他特記事項を確認したか。		
分電盤・0A盤・実験盤	種別及び形式を確認したか。		
	入力電源の電気方式（種別、相線、電圧）を確認したか。		
	幹線の電線種別、太さ及び入線方向を確認したか。		
	主幹器具の定格電流、定格遮断電流及び極数を確認したか。		
	端子盤部の端子形状、対数及び内蔵機器を確認したか。		

（2）動力設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
制御盤	種別及び形式を確認したか。		
	入力電源の電気方式（種別、相線、電圧）を確認したか。		
	幹線の電線種別、太さ及び入線方向を確認したか。		
	主幹器具の定格電流、定格遮断電流及び極数を確認したか。		
	分岐回路の負荷名称、負荷記号、負荷容量、単位装置（定格電流、始動方式、操作・制御方式、操作制御スイッチ及び保護継電器）、監視制御項目、連動及びインターロックを確認したか。		
手元開閉器箱	種別及び形式を確認したか。		
	器具の定格電流及び極数を確認したか。		

（3）電気自動車用充電設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
電気自動車充電装置	形式及び充電方式を確認したか。		
	入力電源の電気方式（種別、相線、電圧）を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		
	工事範囲を確認したか。（○ 基礎）		

（4）電熱設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
制御盤	形式を確認したか。		
	入力電源の電気方式（種別、相線、電圧）を確認したか。		
	幹線の電線種別、太さ及び入線方向を確認したか。		
	主幹器具の定格電流、定格遮断電流及び極数を確認したか。		
	回路番号、供給室名、配線用遮断器などの定格電流、負荷容量、回路電圧、単位装置（操作・制御方式、操作制御スイッチ、保護継電器）、監視制御項目（操作、状態、故障、警報の表示）を確認したか。		
発熱線等	種類、電圧、発熱量、対象面積を確認したか。		
温度センサ等	仕様を確認したか。		

(5) 雷保護設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
受雷部	方式を確認したか。		
	○突針 ○棟上げ導体 ○金属製手すり（別途） 突針支持管の材質、寸法、支持金物、施工方法等を確認したか。		
接地極	方式を確認したか。		
	○銅板埋設 ○接地棒 ○建築構造体利用		
試験用接続端子箱	形式及び端子数を確認したか。		

(6) 受変電設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
受電方式	受電電圧、周波数、受電種別及び区分開閉器の仕様を確認したか。		
キュービクル式配電盤	形式（PF・S形/CB形）を確認したか。		
高圧スイッチギア	形式（CX/CW/PW形）を確認したか。		
変圧器盤	形式及び変圧器仕様を確認したか。		
コンデンサ盤	形式及びコンデンサ及びリアクトルの仕様を確認したか。		
低圧スイッチギア	形式（CX/CS/CW/FW形）を確認したか。		
変圧器・コンデンサ・直列リアクトル	種別、定格及び容量等を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		
	工事範囲を確認したか。（○ 基礎）		

(7) 電力貯蔵設備

(a) 直流電源

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
蓄電池	種類、容量、セル数、出力方式及び収納形式を確認したか。		
整流装置	電気方式、入力電圧、定格直流電流及び盤形式を確認したか。		
負荷電圧補償装置	定格電流を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		
	工事範囲を確認したか。（○ 基礎）		

(b) 交流無停電電源

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
形式	形式を確認したか。		
入力	整流装置側及びバイパス側それぞれの電気方式、電圧及び周波数を確認したか。		
出力	総合定格出力、電気方式、電圧、周波数及び力率を確認したか。		
整流装置	方式及び盤形式を確認したか。		
逆変換装置	方式及び盤形式を確認したか。		
蓄電池	種類、容量、収納形式、停電補償時間及び最低蓄電池温度を確認したか。		
並列盤	方式、構成及び盤形式を確認したか。		
切替盤	方式、機能及び盤形式を確認したか。		
保守バイパス盤	方式及び盤形式を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		
	工事範囲を確認したか。（○ 基礎）		

(c) 電力平準化用蓄電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
蓄電池	種類、容量を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。(○ 基礎)		

(8) 発電設備

(a) 発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
形式	形式を確認したか。		
運転方式	用途、設置高度及び連続運転可能時間を確認したか。		
発電機	電気方式、電圧、周波数、回転数、定格出力及び力率を確認したか。		
原動機	種別、定格出力、始動方式、冷却方式及び過給方式を確認したか。		
配電盤	形式、制御方式、種類、主遮断器定格電流及び定格遮断電流を確認したか。		
蓄電池等	形式及び電池種類を確認したか。		
燃料	種類を確認したか。		
主燃料槽	燃料小出槽、主燃料槽及び付属機器を確認したか。		
給油ボックス	種別、材質、給油口サイズ及び付属機器を確認したか。		
消音器	形式、付属品及び給気ファン仕様を確認したか。		
配管材料等	燃料、排気、換気ダクト等の配管材料を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。 ○基礎 ○防油堤 ○主燃料槽 ○主燃料槽(タンク室含む) ○乾燥砂		

(b) 燃料電池発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
形式	形式を確認したか。		
出力	定格出力、電気方式、電圧、及び力率を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。(○ 基礎)		

(c) 太陽光発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
太陽電池アレイ	出力を確認したか。		
パワーコンディショナ	形式、定格容量、出力電気方式、周波数及び系統連系方式を確認したか。		
連系保護装置	設置の有無を確認したか。		
気温計、日射計	設置の有無を確認したか。		
架台	材質、傾斜角度、基礎、規格及び設置可能面積を確認したか。		
表示装置	表示方式及び形状を確認したか。		
データ処理装置	仕様を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。(○基礎)		

(d) 風力発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
風車発電装置	種類、材質、寸法、ハブ高さ、カットイン風速、定格風速、カットアウト、風速及び定格出力を確認したか。		
制御装置	形式、定格容量、出力電気方式、周波数、系統連系方式及び周囲温度条件を確認したか。		
支持構造物	材質及び寸法を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。(○基礎)		

(9) 構内情報通信網設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
スイッチ	インターフェース、ポート数、処理能力、バックプレーン容量及び機能を確認したか。		
ルータ	インターフェース、ポート数及び機能を確認したか。		
メディアコンバータ	インターフェース、ポート数及び機能を確認したか。		
ファイアウォール	インターフェースの種類、同時セッション数、処理能力、暗号化機能等を確認したか。		
ネットワーク管理装置	ハードウェア仕様、OS仕様その他必要な機能を確認したか。		
光パッチパネル	ファイバ種類、ポート数、パッチコード本数、その他必要な機能を確認したか。		
機器収納ラック	材質及び参考寸法を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(10) 構内交換設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
交換装置	局線応答方式、内線数、外線数及び付加サービス機能を確認したか。 デジタルPBX、IP-PBXまたはVoIPサーバーの区別を確認したか。		
電源装置	停電補償時間を確認したか。		
局線中継台	構造及び付加機能を確認したか。		
局線表示盤	窓数を確認したか。		
本配線盤	形式、端子種類及び端子数を確認したか。		
電話機等	形状及び機能を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 IP電話の品質クラス及び電源供給(PoE方式)を確認したか。 工事範囲を確認したか。		

(11) 情報表示設備

(a) マルチサイン

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
情報表示盤	形式、表示方式、画面サイズ等を確認したか。		
操作制御部	ハードウェア仕様その他必要な機能を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(b) 出退表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
出退表示盤	形式、表示方式、画面サイズ等を確認したか。		
制御装置	形式を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(c) 時刻表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
親時計	形式、回線数及び組込機器を確認したか。		
子時計	形式を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(12) 映像・音響設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
増幅器	形式、定格出力、入出力回線数、出力制御及び付加機能を確認したか。		
スピーカ	形式その他必要な機能を確認したか。		
プロジェクタ	投写方式、映像信号の種類・接続数、接続条件その他必要な機能を確認したか。		
スクリーン	形式、サイズその他必要な機能を確認したか。		
操作卓	材質、仕上げ及び組込機器の種類を確認したか。		
切換装置	映像・音響信号種別、入出力端子数及び接続条件を確認したか。		
マイクロホン	形式、指向特性及びマイクスタンドの有無を確認したか。		
CDプレーヤ オーディオレコーダ Blu-ray/DVDプレーヤ・レ コーダ等	形式その他必要な機能を確認したか。		
カラーモニタ	表示方式、画面形状、サイズ及び入出力信号種別・端子数を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。(○スクリーン ○スクリーンボックス ○操作卓)		

(13) 拡声設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
増幅器	形式、種別、定格出力、入出力回線数、出力制御、付加機能その他必要な機能を確認したか。		
スピーカ	形式及び種類を確認したか。		
マイクロホン	形式、指向性パターン及びマイクスタンドの有無を確認したか。		
CDプレーヤ	形式その他必要な機能を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(14) 誘導支援設備

(a) 誘導支援

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
検出部	検出方式、形式その他必要な機能を確認したか。		
制御部	屋内外の別、形式、音声案内制御その他必要な機能を確認したか。		
案内表示部	屋内外の別、形式その他必要な事項を確認したか。		

(b) インターホン

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
インターホン	形式、通話方式、通信網の方式、局数その他必要な機能を確認したか。		
エレベーター用 インターホン	※原則、配管のみ		
その他	特記事項を確認したか。		

(c) トイレ呼出表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
トイレ呼出表示器	形状、表示窓数、その他必要な機能を確認したか。		
呼出表示灯 呼出ボタン 復帰ボタン	形状等を確認したか。		

(d) 受付呼出表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
受付呼出表示器	形式その他必要な機能を確認したか。		
操作部	形式その他必要な機能を確認したか。		
番号カード発行機	形式その他必要な機能を確認したか。		

(15) テレビ共同受信設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
アンテナ	種別、材質及び素子数を確認したか。		
アンテナマスト	材質、長さ、支持方式等を確認したか。		
機器収容箱	収容機器を確認したか。		
機器	方式、種別、形状等を確認したか。		

(16) 監視カメラ設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
カメラ	伝送方式、レンズ（形式、区分、機能）及び電源供給方式を確認したか。		
モニタ装置	表示方式、モニタのサイズその他必要な機能を確認したか。		
録画装置	録画方式、ディスク容量、その他必要な機能を確認したか。		
旋回装置	屋内外の別、水平・垂直旋回角度及び旋回速度を確認したか。		
ハウジング	屋内外の別、ワイパー・デフロスター・ヒーター及びファンの有無を確認したか。		
映像切替器	切替入力回線数、自動・手動の別、出力回線数、カメラ番号表示、その他必要な事項を確認したか。		
画面分割装置	分割画面数、その他必要な事項を確認したか。		
機器収納ラック	材質及び参考寸法を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(17) 駐車場管制設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
監視制御盤	表示方式、形状、参考寸法、その他必要な機能を確認したか。		
検知器	形式、遮光フードの有無、投受光器の間隔、取付高さ等を確認したか。		
信号等・警報灯	形式、その他必要な機能を確認したか。		
発券機	発券方式、発行券の種類、屋内外の別、連絡インターホン、その他必要な機能を確認したか。		
カーゲート	形式、その他必要な機能を確認したか。		
カードリーダー	屋内外の別、その他必要な機能を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(18) 防犯・入退室管理設備

(a) 防犯

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
制御装置	方式、形式、その他必要な機能を確認したか。		
センサ	形式、その他必要な機能を確認したか。		
警備機器収納箱	形式及び参考寸法等を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。（範囲： ）		

(b) 入退室管理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
制御装置	形式、停電対策、その他必要な機能を確認したか。		
認識部	方式、形式、その他必要な機能を確認したか。		
遠隔制御器	形式、その他必要な機能を確認したか。		
電気錠	動作形式、電源電圧及び電流等を確認したか。		
セキュリティゲート	形式、材質、通路数、車いす対応、その他必要な機能を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 工事範囲を確認したか。（範囲： ）		

(19) 火災報知設備

(a) 自動火災報知

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
受信機・複合盤	種別、性能、回線数、盤形式を確認したか。 アドレス数、アナログ機能、その他必要な機能を確認したか。(R形の場合) 連動制御器の回線数、遠方復帰機構の回線数を確認したか。 (複合盤の場合)		
副受信機・表示装置	盤形式、表示方式、画面サイズ、その他必要な機能を確認したか。		
中継器	アナログ機能、自動試験機能及び遠隔試験機能の有無を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(b) 自動閉鎖

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
連動制御器	回線数及び遠方復帰機構の回線数を確認したか。		
自動閉鎖装置	定格電圧及び電流を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(c) ガス漏れ火災警報

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
受信機	性能、回線数、盤形式及びガスの種類を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(20) 中央監視制御設備

(a) 警報盤

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
警報盤	表示方式、監視点数、表示項目及び電源装置の有無を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		

(b) 簡易形監視制御装置

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
監視操作装置	盤形式、表示装置の形式及び操作部の方式を確認したか。		
信号処理装置	中央処理装置の機能を確認したか。 補助記憶装置の記憶媒体を確認したか。 伝送装置の形式及び機能を確認したか。		
記録装置	雑印字装置の形式を確認したか。		
電源装置	電気方式、定格電力及び停電補償時間を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。 他工事との工事区分を確認したか。 (範囲：) 監視点数を確認したか。		

(c) 監視制御装置

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
監視操作装置	キャビネットの外観・構造を確認したか。		
	グラフィックパネルの監視面材質、形式及び表示内容を確認したか。		
	表示装置の種別及び画面サイズを確認したか。		
信号処理装置	中央処理装置の機能を確認したか。		
	補助記憶装置の記憶媒体を確認したか。		
	伝送装置の形式及び機能を確認したか。		
記録装置	帳票用印字装置の種類を確認したか。		
	雑印字装置の種類を確認したか。		
補助盤	形式及び構成機能を確認したか。		
電源装置	電気方式、定格電力及び停電補償時間を確認したか。		
その他	特記事項を確認したか。		
	他工事との工事区分を確認したか。		
	(範囲：) 監視点数を確認したか。		

(21) 発生材処理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
発生材処理	処分する撤去品を確認したか。		
発生材運搬	運搬距離を確認したか。		

(22) 構内配電線路

(a) 構内配電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
引込開閉器等	PAS、UGS等の仕様を確認したか。		
ケーブル敷設	縮尺を確認したか。		
	埋設標及び標識シートの有無を確認したか。		
電柱、支線柱、支柱	材質、規格及び寸法を確認したか。		
装柱材料	名称、種別、規格及び寸法を確認したか。		
マンホール・ハンドホール	形式を確認したか。		
捨コンクリート 砂利地業	仕様を確認したか。		

(b) 外灯

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
外灯	記号、形式、ポール高さ、材質等を確認したか。		
	記号、形式及び基礎を確認したか。		
ケーブル敷設	縮尺を確認したか。		
	埋設標の確認をしたか。		
捨コンクリート 砂利地業	仕様を確認したか。		
接地極	有無を確認したか。		

(23) 構内通信線路

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
保安器	保安器設置の有無を確認したか。		
ケーブル敷設	縮尺を確認したか。		
	埋設標の確認をしたか。		
マンホール・ハンドホール	形式を確認したか。		
捨コンクリート 砂利地業	仕様を確認したか。		

(24) 電波障害防除設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
ヘッドエンド 機器収容箱 アンテナ アンテナマスト	機器仕様書により、構造、形式、寸法、定格、性能、容量等を確認したか。		
工事区分	他工種工事との区分を確認したか。		

Ⅲ. 工事費の積算（数量算出）

1. 共通工事

(1) 一般共通事項

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
工事種目	工事種目ごとに区分したか。（図面と照合する。）		
工事科目	工事科目ごとに区分したか。（図面と照合する。）		
中科目	主要な構成に従い、中科目として区分したか。		
拾い書	拾い書に落ちがないか拾い図面を確認したか。		
集計表	拾いの数量が集計表に上がってきているか確認したか。 桁間違え、転記の段ずれが無いか確認したか。		
図面照合	必要な図面の訂正をしたか。		
施工条件	改修工事等において施工量が少量または僅少の場合、施工場所が点在する場合及び工程上連続作業が困難な場合等の単価及び価格は、施工に最低限必要な材料・労務・機械器具等を考慮したか。		

(2) 配管配線等

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線	種目、科目、中科目、用途、種類、階、盤、回路及び施工場所ごとに区分し計上したか。 電線・ケーブルは、種別、条数及び施工方法ごと（管内、PF管内、ラック、ころがし等）に区分し計上したか。 管類は、種別、寸法、施工方法及び塗装の有無ごとに区分し計上したか。 ※塗装する箇所は、特記仕様書により確認する。 設計図に記載された縮尺により計測、計算したか。 階高、標準天井高及び機器取付高さを確認したか。 立上り・引下げは、標準天井面又は床面より機器等の中心までの長さとして計測、計算したか。 設計数量で計測、計算したか。 ※隠蔽の分岐配管配線は最短経路、その他は設計図示経路とする。 指定された幹線分岐材料を計上したか。 特記された配管等支持材、金具等を計上したか。 電線管配線でボンディングを計上したか。		
位置ボックス・ジョイントボックス	材質及び種類ごとに区分し計上したか。 ボックスアースを計上したか。※電力用で金属製を計上した場合		
フラッシュプレート	材質及び種類ごとに区分し計上したか。 材質 ○金属製 ○樹脂製		
ブルボックス	材質、形式、寸法、仕上及び用途ごと（電力・通信）に区分し計上したか。 塗装を計上したか。※隠ぺい、SUS以外。 接地端子を計上したか。※電力用の場合。（樹脂製以外）		
配線ダクト	形式、寸法及び仕上ごとに区分し計上したか。		
ケーブルラック	形式、寸法、仕上及び施工方法ごとに区分し計上したか。		
バスダクト	形式、電圧、電流ごとに区分し、屈曲、分岐部などの個数も計上したか。		
金属線び	規格ごとに区分し計上したか。 付属品（ボックス類）は、規格ごとに区分し計上したか。		

(3) 区画貫通処理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
ケーブルラック	延焼防止処理と防火区画貫通処理を区分し計上したか。 施工場所（床・壁）ごとに区分し計上したか。		
配管	配管サイズごとに区分し計上したか。		

(4) 接地工事

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
接地極	種別、接地極の材質及び寸法ごとに区分し計上したか。		
接地埋設標	要否を確認し、必要なところに計上したか。		
接地端子箱	形式及び端子数ごとに計上したか。		

(5) 搬入費

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
搬入費	必要とする機器を選別したか。		
	(受変電、直流電源装置等の機器で、単独の質量が100kg以上のもの)		
	機器の種類、台数、寸法及び重量ごとに計上したか。		
	容積品と重量品の区分をしたか。		
	搬入基準単価の構成との確認を行ったか。		

(6) 土工

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
根切り	根切りの深さを確認したか。		
	余幅等の値は適正に計上したか。		
	他工事と重複する部分の工事区分を確認したか。		
	舗装の有無を確認したか。		
	舗装部分の解体 <input type="checkbox"/> 本工事 <input type="checkbox"/> 別途工事		
	掘削方法は妥当か。		
埋戻し	掘削方法 <input type="checkbox"/> 機械掘り <input type="checkbox"/> 人力掘り		
	計画数量を図で記載したか。		
	根切り数量から山砂、砂利敷、捨コンクリート、埋設物などの体積を減じたか。(除く、200φ以下の配管及び複合単価ハンドホール。)		
	舗装の仕様を確認したか。		
残土処分	舗装部分の復旧 <input type="checkbox"/> 本工事 <input type="checkbox"/> 別途工事		
	根切数量から埋戻し及び盛り土等の数量を減じたか。		
掘削機械運搬	処分場所を確認したか。		
	掘削機械の運搬費を計上したか。		
	掘削機械		
	<input type="checkbox"/> BH 0.13m3 <input type="checkbox"/> BH 0.28m3 <input type="checkbox"/> BH 0.45m3 <input type="checkbox"/> 人力		

(7) コンクリート工事

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
コンクリート基礎	コンクリート、鉄筋、型枠及びモルタル塗りの数量を確認したか。		
	鉄筋のサイズ及び数量を確認したか。		
	鉄筋のサイズ <input type="checkbox"/> D10 <input type="checkbox"/> D13		

(8) はつり工事

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
はつり工事	はつり工事の数量は、貫通口径、コンクリート厚さ及びはつり種ごとに区分し計上したか。		

(9) 撤去工事

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
撤去工事	再使用するもの、しないものに区分し計上したか。 配管配線、機器類等の数量は、新設工事の数量積算に準じて計測、計算したか。		
発生材処分費	発生材処分費は、設計図書により計上したか。 「廃棄物」、「リサイクルするもの」、「引き渡すもの」に区分したか。		

(10) 仮設備(仮電源設備)

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
材料	仮設期間を確認したか。 リース品以外は補正率により計上したか。		

(11) 養生等

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
養生	必要により養生方法を確認し養生範囲を計上したか。		
足場	必要により仮設足場を計上したか。		

(12) 発生材処理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
発生材処理	撤去品の重量・容積を品目ごとに計上したか。		
発生材運搬	積込み費を計上したか。 ※積込み方法確認 運搬費を計上したか。		

2. 電力設備

(1) 電灯設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
配線器具類	定格電圧、電流、容量、極数及び形式ごとに区分し計上したか。		
LED照明器具	形式、記号、定格全光束、LED制御装置及び取付け方法ごとに区分し計上したか。 必要により、位置ボックスを計上したか。		
照明制御装置	仕様ごとに区分し計上したか。		
分電盤・OA盤・実験盤	形式、材質及び記号ごとに区分し計上したか。 盤類の歩掛りは、以下に注意し算出したか。 (歩掛算出書による) ・内部構成機器(主幹、分岐ブレーカ、リレー等)の個数、容量等 ・照明制御関係のリレーユニット ・OA盤の端子部		
機器への接続	換気扇等の結線費を計上したか。		

(2) 動力設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
制御盤	形式、材質及び記号ごとに区分し計上したか。 盤類の歩掛りは、以下に注意し算出したか。 (歩掛算出書による) ・ 負荷容量ごとに回路数を計上しているか。 ・ 単位装置がある場合は、分岐ブレーカを計上してはいないか。		
手元開閉器	材質、形式、容量及び極数等ごとに区分し計上したか。		
機器への接続	電動機等への接続材はサイズごとに区分し計上したか。 電動機の結線費を計上したか。		

(3) 電気自動車用充電設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
電気自動車用充電装置	形式、充電方式及び充電時間ごとに区分し計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		

(4) 電熱設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
制御盤	形式、材質及び記号ごとに区分し計上したか。 盤類の歩掛りは、以下に注意し算出したか。 (歩掛算出書による) ・ 負荷容量ごとに回路数を計上しているか。		
発熱線等	構造、種類、電圧、発熱量及び回路ごとに区分し計上したか。		
温度センサ等	仕様ごとに区分し計上したか。		

(5) 雷保護設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
突針及び突針支持管	支持パイプの材質、寸法、支持金物、施工方法ごとに区分し計上したか。		
棟上導体	材質、施工方法ごとに区分し計上したか。 伸縮継手を計上したか。		
避雷導線	水平部分と垂直部分とを区分し、支持材を計上したか。 接続材を計上したか。		
接地極	規格、種別及び寸法ごとに計上したか。 埋設標を計上したか。		
試験用接続端子箱	記号、形式及び材質ごとに区分し計上したか。		
保護管	材質及びサイズごとに区分し計上したか。		

(6) 受変電設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。 高圧ケーブル端末処理材を計上したか。		
高低圧配電盤類	定格及び盤形式ごとに区分し計上したか		
変圧器・コンデンサ・直列リアクトル	種別、定格及び容量ごとに区分し計上したか。 ※低圧は、盤の見積りに含むので、計上しない。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
リフタ・引出用台	必要な場合は計上したか。		
耐電マット	必要な場合は計上したか。		
ダイヤル温度計	必要な場合は計上したか。 (油入変圧器500KVA以上、モールド変圧器150KVA以上)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(7) 電力貯蔵設備

(a) 直流電源

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
直流電源装置	電気方式、蓄電池種別及び容量ごとに区分し計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(b) 交流無停電電源

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
交流無停電電源装置	電気方式、定格出力容量、蓄電池種別及び補償時間ごとに区分し計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(c) 電力平準化用蓄電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
電力平準化用蓄電装置	形式、電気方式及び蓄電池種ごとに区分し計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(8) 発電設備

(a) 発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
交流発電機・原動機	形式、定格、性能及び容量ごとに区分し計上したか。		
配電盤	形式及び制御方式ごとに区分し計上したか。		
燃料小出槽	容量ごとに区分し計上したか。		
消音器	用途ごとに区分し計上したか。		
補機付属装置等	形式、寸法、定格及び容量ごとに区分し計上したか。		
工事費	配線工事、油配管工事、換気ダクト工事、排気ダクト工事等を計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
防油堤	防油堤を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
主燃料槽	主燃料槽を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(b) 燃料電池発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
燃料電池発電装置	形式、電気方式及び容量ごとに区分し計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(c) 太陽光発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
太陽電池アレイ	形式及び定格容量ごとに区分し計上したか。		
パワーコンディショナ	形式及び定格容量ごとに区分し計上したか。		
接続箱	接続箱を計上したか。		
計測、表示装置	計測機器、表示装置等を計上したか。		
架台	架台を計上したか。		
付属ケーブル	製造者標準ケーブル等を計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

(d) 風力発電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
風車発電装置	形式、電気方式及び定格容量ごとに区分し計上したか。		
制御装置	制御装置を計上したか。		
支持構造物	支持構造物を計上したか。		
付属ケーブル	製造者標準ケーブル等を計上したか。		
基礎	基礎を計上したか。 (○本工事 ○別途工事)		
搬入費	搬入費を計上したか。		

3. 通信・情報設備

(1) 構内情報通信網設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。 二重床用情報コンセントの二重計上はないか。 (コンセント分岐にて計上されていないか。)		
機器	構造、形式、寸法、定格、性能及び容量ごとに区分し計上したか。 システム系統ごとに区分し計上したか。		
パッチパネル	対数ごとに区分し計上したか。 ケーブル本数・規格ごとに区分し計上したか。		
通信制御装置 (HUB、ルータ類)	形式、容量、付加機能及び規格ごとに区分し計上したか。		
通信総合盤	通信総合盤はどの設備で計上しているか。 (設備)		

(2) 構内交換設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。 内線電話への配線の計上は確認したか。(特記仕様書で確認) ○ 計測 ○ 1台当たりの計算 二重床用情報コンセントの二重計上はないか。 (コンセント分岐にて計上されていないか。)		
本配線盤、端子盤類	形式、端子盤種類及び容量ごとに区分し計上したか。		
交換装置	形式、容量、付加機能及び中継方式ごとに区分し計上したか。		
局線中継台	形式、接続方式及び付加機能等ごとに区分し計上したか。		
局線表示盤	形式及び窓数ごとに区分し計上したか。		
電源装置	形式、電気方式、蓄電池種別及び容量ごとに区分し計上したか。		
電話機等	形状及び機能ごとに区分し計上したか。		

(3) 情報表示設備

(a) マルチサイン

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
情報表示盤	形式、表示方式及び画面サイズごとに区分し計上したか。		
操作制御部	ハードウェア仕様その他必要な機能ごとに区分し計上したか。		

(b) 出退表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
出退表示盤	表示方式、形状、画面サイズ及び窓数ごとに区分し計上したか。		
制御装置	形式ごとに区分し計上したか。		
表示発信器	形式及び記号ごとに区分し計上したか。		

(c) 時刻表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
親時計	形式、回線数及び電源種別ごとに区分し計上したか。		
子時計	形式ごとに区分し計上したか。		

(4) 映像・音響設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
増幅器	形式、種別、定格出力、入出力回線数、出力制御及び付加機能ごとに区分し計上したか。		
スピーカ	形式ごとに区分し計上したか。		
プロジェクタ	投写方式、映像信号の種別・接続数及び接続条件ごとに区分し計上したか。		
スクリーン	形式及びサイズごとに区分し計上したか。		
操作卓	材質、仕上げ及び組込機器ごとに区分し計上したか。		
切換装置	映像・音響信号種別、入出力端子数及び接続条件ごとに区分し計上したか。		
マイクロホン	形式及び指向性パターンごとに区分し計上したか。		
マイクロホンスタンド	形式ごとに区分し計上したか。		
CDプレーヤ オーディオレコーダ Blu-ray/DVD プレーヤ・レ コーダ等	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
カラーテレビ・モニタ	表示方式、画面サイズ及び入出力信号ごとに区分し計上したか。		
カラービデオカメラ	撮像素子、水平解像度、最低被写体照度、映像SN比、同期方式、映像出力種別及びズーム倍率ごとに区分し計上したか。		

(5) 拡声設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
増幅器	形式、種別、定格出力、入出力回線数、出力制御及び付加機能ごとに区分し計上したか。		
スピーカ	形式、記号及びアッテネータの有無ごとに区分し計上したか。		
マイクロホン	形式及び指向性パターンごとに区分し計上したか。		
マイクロホンスタンド	形式ごとに区分し計上したか。		
CDプレーヤ アナウンスレコーダ等	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
音量調節器	形式ごとに区分し計上したか。		

(6) 誘導支援設備

(a) 誘導支援

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
検出部	検出方式、形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
制御部	屋内外の別、形式、音声案内制御及び機能ごとに区分し計上したか。		
案内表示部	屋内外の別及び形式ごとに区分し計上したか。		

(b) インターホン

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
インターホン	形式、通話方式、通信網の方式及び局数ごとに区分し計上したか。		
エレベーター用 インターホン	工事区分に従い計上したか。		
テレビインターホン	形状、通話方式及びモニタ種類ごとに区分し計上したか。		
外部受付用 インターホン	形状、通話方式及び選局数ごとに区分し計上したか。		
電源装置	形式及び定格容量ごとに区分し計上したか。		
インターホン子機	形状ごとに区分し計上したか。		

(c) トイレ呼出表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
トイレ呼出表示器	形状及び表示窓数ごとに区分し計上したか。		
呼出表示灯 呼出ボタン 復帰ボタン	形状ごとに区分し計上したか。		

(d) 受付呼出表示

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
受付呼出表示器	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
操作部	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
番号カード発行機	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		

(7) テレビ共同受信設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
アンテナ	種別、材質及び素子数ごとに区分し計上したか。		
アンテナマスト	材質、長さ及び支持方式ごとに区分し計上したか。		
機器収容箱	形式ごとに区分し計上したか。 機器収容箱と分岐器、分配器、増幅器等分けて計上したか。		
機器	方式、種別及び形状ごとに区分し計上したか。		

(8) 監視カメラ設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
カメラ	形式、画素数、レンズ、形状、ハウジング、同期方式及び電源供給方式ごとに区分し計上したか。		
機器	形式、定格及び性能ごとに区分し計上したか。		

(9) 駐車場管制設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
管制盤	表示方式、形状、参考寸法及び機能ごとに区分し計上したか。		
検知器	形式、遮光フードの有無及び在車検知器の方式ごとに区分し計上したか。		
信号等・警報灯	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
発券機	発券方式、発行券の種類、屋内外の別、連絡インターホン及び機能ごとに区分し計上したか。		
カーゲート	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
カードリーダー	屋内外の別及び機能ごとに区分し計上したか。		
ループコイル	埋設に係る土工事は、 ○ 本工事 ○ 別途工事		
機器用基礎	寸法ごとに区分し計上したか。 砂利地業を計上したか。		

(10) 防犯・入退室管理設備

(a) 防犯

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
制御装置	方式、形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
センサ	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
警備機器収納箱	形式及び参考寸法ごとに区分し計上したか。		

(b) 入退室管理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
制御装置	形式、停電対策及び機能ごとに区分し計上したか。		
認識部	方式、形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
I Cカード	種類ごとに区分し計上したか。		
遠隔制御器	形式及び機能ごとに区分し計上したか。		
電気錠	動作形式、電源電圧及び電流ごとに区分し計上したか。		
セキュリティゲート	形式、材質、通路数、車いす対応及び機能ごとに区分し計上したか。		

(11) 火災報知設備

(a) 自動火災報知

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
受信機	形式、級別及び回線数ごとに区分し計上したか。		
副受信機・表示装置	盤形式、表示方式、画面サイズ及び機能ごとに区分し計上したか。		
中継器	アナログ機能、自動試験機能及び遠隔試験機能ごとに区分し計上したか。		
感知器	方式、種別及び形状ごとに区分し計上したか。		
発信機	級別及び形状ごとに区分し計上したか。		
機器収容箱	形状及び内蔵機器ごとに区分し計上したか。 ※端子板が必要な場合は別途計上する。		
その他機器	電鈴の形状、寸法及び電源方式ごとに区分し計上したか。 携帯用送受話機を計上したか。		
立会検査費	立会検査費を計上したか。		

(b) 自動閉鎖

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
連動制御器	形状、級別及び回線数ごとに区分し計上したか。		
自動閉鎖装置	方式、種別及び形状ごとに区分し計上したか。		
結線費	防火戸レリーズ以外の閉鎖装置の結線費を計上したか。		

(c) ガス漏れ火災警報

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
受信機	形状及び回線数ごとに区分し計上したか。		
検知器	方式、種別及び形状ごとに区分し計上したか。		

(12) 中央監視制御設備

(a) 警報盤

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
警報盤	盤形式、表示窓数及び電源装置ごとに区分し計上したか。		

(b) 簡易形

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
監視操作装置	表示装置の形式及び操作部の方式ごとに区分し計上したか。		
信号処理装置	中央処理装置及び伝送装置ごとに区分し計上したか。		
記録装置	印字装置の種別ごとに区分し計上したか。		
電源装置	形式及び電気方式ごとに区分し計上したか。		

(c) 監視制御装置

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
配管配線等	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。		
監視操作装置	表示装置の形式及び操作部の方式ごとに区分し計上したか。		
信号処理装置	中央処理装置及び伝送装置ごとに区分し計上したか。		
記録装置	印字装置の種別ごとに区分し計上したか。		
補助盤	形式及び構成機能ごとに区分し計上したか。		
電源装置	形式及び電気方式ごとに区分し計上したか。		

4. 屋外

(1) 構内配電線路

(a) 構内配電

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
ケーブル敷設	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。 必要に応じ、埋設標及び標識シートを計上したか。		
電柱、支柱、支線柱	材質、規格及び寸法ごとに区分し計上したか。		
装柱材料	名称、種別、規格及び寸法ごとに区分し計上したか。		
架線、引込線	規格、名称及び寸法ごとに区分し計上したか。 設計数量で算出し、条数及び径間個所数を計上したか。		
引込開閉器等	形式及び容量ごとに区分し計上したか。		
マンホール・ハンドホール	記号ごとに計上したか。		
接地極	規格、種別及び寸法ごとに計上したか。 必要に応じ、埋設標を計上したか。		

(b) 外灯

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
外灯	記号、形式、ポール高さ及び材質ごとに区分し計上したか。		
基礎	寸法ごとに区分し計上したか。 捨コンクリート及び砂利地業を計上したか。		
接地極	規格、種別及び寸法ごとに計上したか。 必要に応じ、埋設標を計上したか。		

(2) 構内通信線路

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
ケーブル敷設	1. 共通工事の各項目に従い計上したか。 必要に応じ、埋設標及び標識シートを計上したか。		
電柱、支柱、支線柱	材質、規格及び寸法ごとに区分し計上したか。		
装柱材料	名称、種別、規格及び寸法ごとに区分し計上したか。		
架線、引込線	規格、名称及び寸法ごとに区分し計上したか。 設計数量で算出し、条数及び径間個所数を計上したか。		
保安器	形式ごとに区分し計上したか。		
マンホール・ハンドホール	記号ごとに計上したか。		
接地極	規格、種別及び寸法ごとに計上したか。 必要に応じ、埋設標を計上したか。		

(3) 電波障害防除設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
機器	機器仕様書により、形式、寸法、定格、性能及び容量ごとに区分し計上したか。 系統ごとに区分し計上したか。		

5. その他

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
集計	各階集計によるバランスを確認したか。 バランスがあわない場合の理由を整理したか。		

機械設備工事編

数量算出チェックリスト

業 務 名 _____

施 設 名 _____

業 務 受 注 者 名 _____

担 当 者 名

管 理 技 術 者 : _____

主任担当技術者（積算） : _____

担当技術者（積算） : _____

I. 基本事項
1. 基準類の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
基準類等	適用となる設計図書と基準類（適用年度）について確認したか。		
	設計図書		
	・図面及び特記仕様書		
	・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成 年版）		
	・公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成 年版）		
	・公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（平成 年版）		
	積算関係基準類		
	・宮城県公共建築工事積算基準（平成 年版）		
	・公共建築工事標準単価積算基準（平成 年版）		
	・公共建築設備数量積算基準（平成 年版）		
	・公共建築工事内訳書標準書式（設備工事編）（平成 年版）		
・公共建築工事見積書標準書式（設備工事編）（平成 年版）			

2. 数量基準

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
数量	数量は、原則として設計数量とする。ただし、計画数量を求める場合は、公共建築設備数量積算基準に示す方法としたか。		
設計寸法	設計寸法は、設計図書に記載された寸法、記載された寸法から計算によって得られる寸法及び計測により読み取ることのできる寸法としたか。		
単位	長さ、面積、体積及び質量の単位は、原則としてm、m ² 、m ³ 、kg及びtとし、機器の単位は、基、面、台、個、組等としたか。また、少量の改修が点在する場合の数量は、か所等の適切な単位としたか。		
端数処理	端数処理は、四捨五入としたか。		
有効数値	長さは、少数点以下第1位とし、面積、体積及び質量は、小数点以下第2位としたか。		
工事費内訳書の数量	原則として小数点以下第1位を四捨五入し、整数としたか。		

3. 適用の設計図書の確認

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
工事名	工事名を確認したか。		
工事場所	工事場所を確認したか。		
工事種目	工事種目を確認したか。		
工事科目	工事科目を確認したか。		
指定部分	指定部分の有無を確認したか。 ・無し ・有り 範囲：		
予算区分	予算の区分による拾い分けが必要か発注者に確認したか。 ・無し ・有り 範囲：		
関連工事	本工事以外の関連工事があるか発注者に確認したか。 ・無し ・有り (・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・) 関連工事がある場合は、仮設の範囲を確認したか。		
発注範囲	本工事において(発注しない)別途工事部分があるか確認したか。 ・無し ・有り 特記仕様書記載 (・ ・) ・有り 図面記載 (・ ・)		
足場	足場を確認したか。 ・別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。 ・本工事で設置する。		
養生	養生範囲を確認したか。 ・無し ・有り 室名：		
多湿箇所	多湿箇所の有無を確認したか。 ・無し ・有り 室名：		
はつり補修	はつり補修の有無及び工法について確認したか。 ・無し ・有り ・手はつり (・ 配管 ・ スパイラルダクト ・ 長方形ダクト) ・ダイヤモンドカッター (・ 配管 ・ スパイラルダクト)		
発生材処理	発生材処理の有無について確認したか。 ・無し (別途工事を含む。) ・有り (・ コンクリート ・ コンクリート及び鉄から成る建設資材 ・ 木材 ・ アスファルト・コンクリート ・)		
非破壊検査	溶接部の非破壊検査を確認したか。 ・無し (別途工事を含む。) ・本工事 検査項目：		

II. 工事費の積算

1. 一般共通事項

1-1 機器設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 機器数量	機器類の数量を機器の形式ごとの台数又は組数としたか。		
2 搬入・据付			
搬入	機器の寸法・質量を見積書採用メーカーの機器寸法・質量を採用したか。 単独の機器の質量が100kg以上の機器としたか。 対象とした質量は分割搬入の場合、各単体の機器の質量としたか。 重量品(600kg/m ³ 以上)は、質量に対応した数値による補正をしたか。 容積品(600kg/m ³ 未満)は、容積当たりの質量に対応した数値による補正をしたか。 揚重機の指定があるか確認したか。指定がある場合は別計上したか。 ・無し ・有り 揚重機種別：		
据付	機器の据付は、防振基礎・天吊り等の施工条件を確認したか。 歩掛りのない機器は、見積り・類似機器の歩掛りを採用又は歩掛り補正としたか。		
3 機器用基礎	工事区分が機械設備である事を確認したか。		
コンクリート	コンクリートの面積にその高さ、又は厚さを乗じた体積としたか。 鉄筋、電線管及び配管類による体積の欠除は無いものとしたか。 躯体の上に無筋コンクリートがある場合の基礎の高さは、無筋コンクリートの厚さを加えたものとしたか。		
型枠	型枠の数量は、コンクリート側面の面積としたか。		
鉄筋	鉄筋の数量は、コンクリートの設計寸法に基づく長さに、単位質量を乗じた質量としたか。		
モルタル	モルタルの数量は、モルタル塗りを行うコンクリート面の面積としたか。		
4 保温	保温工事は標準仕様書及び特記仕様書に記載されている施工上の分類及び関連材料等により区分したか。 機器、タンク類及び煙道の保温の数量は、表面積としたか。		
5 塗装	塗装の有無及び工法について確認したか。 ・無し ・有り (・ 工場塗装 ・ 現場塗装)		
	現場塗装の場合は次の項目を確認したか。		
	機器及びタンク類の塗装の数量は、表面積としたか。		
	支持金物及び架台類の塗装の数量は表面積、垂鉛めっきは質量としたか。		

1-2 ダクト設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 ダクト	<p>系統ごとに計測したか。(SA、RA、OA、EA、各階、空調機ごとなど)</p> <p>ダクトの長さをダクト幅の中心線の長さとしたか。</p> <p>曲がり部及び分岐部等のダクトは、中心線上を延長した直線を仮定して、その交点までの長さとしたか。</p> <p>ダクトの数量をダンパー類及びたわみ継手による欠除はないものとしたか。</p> <p>ダクトの数量は消音エルボ、チャンパー、吹出口ボックス、鋼板製ダクト(1.6mm)を除いたものとしたか。</p> <p>支持金物及び吊り金物は計測の対象としていないか。</p> <p>制気口に接続するネック部の長さを確認したか。</p> <p>漸小又は漸大したダクトの数量を変形前後の最大寸法に長さを乗じた面積としたか。</p> <p>ダクトの種別を確認したか。(・低圧ダクト ・高圧ダクト)</p> <p>多湿箇所はあるか。 室名(系統)：</p> <p>多湿箇所に使用するダクトをシール付としたか。</p> <p>改修の場合、あと施工アンカーを計上したか。</p>		
長方形ダクト	<p>長方形ダクトの工法指定があるか確認したか。</p> <p>長方形ダクトの長辺が1,500mmを超える場合はアングルフランジ工法としたか。</p> <p>長方形ダクトの数量を板厚ごとに計上したか。</p> <p>長方形ダクトの数量をダクト長さに周長を乗じた表面積としたか。</p>		
スパイラルダクト	スパイラルダクトの数量を口径ごとの長さとしたか。		
フレキシブルダクト	フレキシブルダクトの数量を材質、口径及び長さごとの本数としたか。		
鋼板製ダクト	防火区画の壁・床を貫通する鋼板製ダクト(1.6t)の数量を面積としたか。		
チャンパー類	<p>チャンパー類の数量を表面積としたか。</p> <p>チャンパー類の内貼りの有無を確認したか。有の場合、仕様を確認したか。</p> <p>チャンパーのガラリ等に接続される面が全面の場合は、ガラリ等の面積を差し引いた表面積としたか。</p> <p>点検口は図示を確認して寸法ごとの数量としたか。</p> <p>インサート(あと施工アンカー)は計上したか。</p>		
ボックス類	<p>ボックスの内貼りの有無を確認したか。</p> <p>インサート(あと施工アンカー)は計上したか。</p>		
消音エルボ	消音エルボの数量を数量積算基準による略算法による表面積としたか。		
2 ダクト付属品			
吹出口及び吸込口	数量をその材質、形状及び寸法ごとの個数としたか。		
たわみ継手	<p>送風機に接続した、たわみ継手の数量を送風機ごとの組数としたか。</p> <p>たわみ継手の数量を接続するダクト又は機器の周長としたか。</p>		
ダンパー	<p>ダンパーの数量を種類、寸法及び形状ごとの個数としたか。</p> <p>防煙ダンパーの復帰方式を確認したか。(・遠隔復帰式 ・手動式)</p> <p>ピストンダンパーの復帰方式を確認したか。(・遠隔復帰式 ・手動式)</p>		
定風量ユニット、 変風量ユニット	定風量ユニット及び変風量ユニット数量を形式及び風量ごとの台数としたか。		
ベントキャップ類	ベントキャップ及びウェザーカバーの数量を材質、形状、口径又は寸法ごとの個数としたか。		
鋼製支持架台等	ダクト用の鋼製支持架台の数量を鋼材の形状、寸法、厚さごとの質量又は同一の支持架台ごとの個数としたか。		
3 計器類			
風量測定口	<p>数量を測定口の材質及び形式ごとの個数としたか。</p> <p>ダクトサイズに対する取付個数を確認したか。</p>		
温度計	数量を形式ごとの個数としたか。		
4 保温	<p>保温工事は標準仕様書及び特記仕様書に記載されている施工上の分類及び関連材料等により区分したか。</p> <p>長方形ダクトの保温の数量をダクトの表面積としたか。</p> <p>スパイラルダクトの保温の数量を350A以下は長さとしたか。</p> <p>スパイラルダクトの保温の数量を350Aを超えるものは表面積としたか。</p> <p>チャンパーの保温の数量は表面積としたか。</p> <p>チャンパーのガラリ等に接続される面が全面の場合は、ガラリ等の面積を差し引いた表面積としたか。</p> <p>外気チャンパーの保温がある場合、外貼りとしたか。</p> <p>消音エルボの消音内貼りの数量は表面積としたか。</p>		
5 塗装	<p>ダクトの塗装の有無を確認したか。</p> <p>・無し</p> <p>・有り 塗装箇所又は室名：</p> <p>ダクトの塗装の数量は、次の数量としたか。</p> <p>ダクトの塗装の数量はダクトの表面積としたか。</p> <p>チャンパーの塗装の数量は表面積としたか。</p> <p>支持金物及び架台類の塗装の数量は表面積、垂鉛めっきは質量としたか。</p>		

1-3 配管設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管	階単位又は部屋単位で計測したか。 数量は、施工上の分類(用途別、管種別、呼び径別、接合方法別、施工箇所別)及び関連材料別に区分したか。 配管の数量を直線の長さとしたか。 曲がり部を始点及び終点に接して延長した直線の交点までの長さとしたか 弁類、防振継手、伸縮管継手及びフレキシブルジョイント等の配管付属品による配管の欠除はないものとしたか。 支持金物及び吊り金物を計測の対象としていないか。 屋外架空や屋上配管は、支持金物を計上したか。 形鋼振れ止め支持を必要とする配管を確認したか。 配管類のためのスリーブ施工に関する建物の構造を確認したか。 鉄筋コンクリート造(対象:) 鉄骨鉄筋コンクリート造(対象:) デッキプレートの開口切断の要否を確認したか。 衛生器具に接続した配管の数量を立上り、立下り等を見込んだ長さとしたか。		
2 配管付属品			
弁類	弁類の耐圧を確認したか。(・JIS又はJV5k・図示) 弁類の材質を確認したか。(・青銅製・ステン製・) 数量を形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。		
防振継手	数量を形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。		
伸縮管継手	数量を形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。 伸縮継手固定架台を仕様(単式・複式)ごとの組数としたか。 固定点の配管固定架台を計上したか。		
フレキシブルジョイント	数量を形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。 鋼板製タンク類はベローズ形としたか。 冷却塔・FRP製水槽類は合成ゴム製としたか。		
弁装置	数量を種別及び呼び径ごとの組数としたか。 弁装置の構成品の歩掛りを確認したか。 弁装置の制御弁本体の価格は取付労務費のみを計上したか。 屋内露出の保温を行う弁類の保温外装をカラー亜鉛鉄板としたか。 屋内隠蔽の保温を行う弁類の保温外装を配管保温外装と同じとしたか。		
鋼製支持架台等	配管用の鋼製支持架台の数量を鋼材の形状、寸法、厚さごとの質量又は同一の支持架台ごとの個数としたか。		
3 計器類			
ポンプ付属品	ポンプ付属品と重複がないか確認したか。		
圧力計	数量を形式、規格及び口径ごとの個数としたか。		
温度計	数量を形式、規格及び口径ごとの個数としたか。		
4 保温	保温工事は標準仕様書及び特記仕様書に記載されている施工上の分類及び関連材料等により区分したか。 配管の保温の数量を配管の長さとしたか。 弁類、ストレーナー等の保温は呼び径が65以上を計測の対象とし、保温の数量を個数としたか。 パタフライ弁の保温を他の弁と分けたか。		
5 塗装	配管の塗装の有無を確認したか。 ・無し ・有り 塗装箇所又は室名: 配管の塗装の数量は、次の数量としたか。 配管の塗装及び防錆の数量は配管の長さとしたか。 支持金物及び架台類の塗装の数量は表面積、亜鉛めっきは質量としたか。		
6 土工事	根切り、埋戻し及び残土処分を計画数量とし、砂利地業等を設計数量としたか。 土工事の数量を他の土工事と重複のない数量としたか。		
根切り	根切りの数量を根切り幅に根切り長さ及び根切り深さを乗じた体積としたか。 根切りの種別を確認したか。(・人力・機械(バックホウ))		
埋戻し土・盛土	埋戻し土の処理方法を確認したか。 ・根切り土の中の良質土 ただし○コンクリート管 ○樹脂管 ○ 管以外の周囲は山砂の類 ・山砂の類		
埋戻し建設発生土	数量を根切り数量から基準線以下の山砂・砂利地業等の体積を減じた体積としたか。 建設発生土の処理方法を確認したか。 ・処理方法:構内敷ならし ・処理方法:構内指定場所へのたい積 ・処理方法:場外搬出 数量を根切り数量から埋戻し数量を減じた体積としたか。		
砂利地業等	配管類の砂利地業の体積を根切り底面積に厚さを乗じた体積としたか。		
土工機械	運搬費は他の土工事と内容を確認して計上したか。 ・排水設備に含む。 ・給水設備に含む。		

2. 空調設備

2-1 空調 機器設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
機器数量	冷媒配管の口径を見積書採用メーカーの口径としたか。		
文字標識等	数量を建物の延べ面積に対応した工数として計上したか。		
案内板	図面特記がある場合、計上したか。 m ²		
保温	熱源機器の保温は製造者の見積を参考とするか、または別途に計測するかを確認したか。		

2-2 空調 ダクト設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 ダクト			
ボックス類	線状吹出口ボックスの板厚はボックスの高さをもとにした板厚としたか。		
2 保温	保温工事は標準仕様書及び特記仕様書に記載されている施工上の分類及び関連材料等により区分したか。		
	還気ダクトの保温を確認したか。 ・要(範囲: 、仕様:) ・不要		
	外気ダクトの保温を確認したか。 ・要(範囲: 、仕様:) ・不要		

2-3 空調 配管設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管	冷温水配管の数量は、次としたか。 ・分岐部の配管の数量を立上り、立下り等を見込んだ長さとしたか。 ・ファンコイルユニット等に接続した配管の数量を立上り、立下り等を見込んだ長さとしたか。 ・蒸気及び還水管の数量は、次としたか。 ・分岐部の配管の数量を立上り、立下り等を見込んだ長さとしたか。 ・放熱器等に接続した配管の数量を立上り、立下り等を見込んだ長さとしたか。 冷媒配管の数量を立上り、立下り等を見込んだ長さとしたか。 冷水・冷温水配管の合成樹脂製支持受の数量を形状、規格及び呼び径ごとの個数としたか。 図面特記がある場合、冷媒管の防火区画貫通処理(建築基準法に適合した工法)を計上したか。		
配管材料	配管材料を確認したか。		
2 配管付属品			
フレキシブルジョイント	油系統を油用ベローズ形としたか。		
弁装置	蒸気の弁装置の保温は図示の無い場合、計上していないか確認したか。		
3 計器類			
瞬間流量計	数量を形式、規格及び口径ごとの個数としたか。 固定形の数量を設置数量としたか。 着脱式の場合、メーターの必要個数とノズルの設置個数としたか。		
圧力計	蒸気用とその他用に拾い分けをしたか。		
4 保温	冷媒管の保温外装を確認したか。		

2-4 空調 総合調整

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
総合調整	配管系統の数量を配管の長さとしたか。 直接暖房の蒸気配管、空気抜き管、油管等を計測の対象としていないか。 パッケージ方式の機器、冷媒管は計測の対象としていないか。 長方形ダクトの数量を表面積としたか。 スパイラルダクトの数量を長さとしたか。 単独の全熱交換ユニット等の系統が独立しており風量調整を必要としないダクトを計測の対象としていないか。 各階機械室内機器の数量をユニット形空調機及びコンパクト形空調機の台数としたか。 ファンコイルユニットの数量をファンコイルユニットの台数としたか。 主機械室内機器の数量を建物の延べ面積に対応した工数としたか。 改修工事の場合、主機械室内機器の数量は、建物の延べ面積に対応した工数を、改修面積、内容等により補正した工数としたか。 総合調整に必要な電力、水、ガス、油等を計測の対象としていないか。また、設計図書に記載がある場合は必要な数量としたか。		

3. 換気設備

3-1 換気 ダクト設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 ダクト	厨房排気系統のダクトの材質・板厚・シールの有無を確認したか。		
2 ダクト付属品			
排気フード	数量を材質及び形状ごとの個数としたか。		
3 保温	排気ダクトの保温を確認したか。：要（範囲： 、仕様： ） ・ # ：不要 外気ダクトの保温を確認したか。：要（範囲： 、仕様： ） ・ # ：不要		

3-2 換気 総合調整

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
総合調整	系統が独立しており風量調整を必要としないダクトを計測の対象としていないか。 長方形ダクトの数量を表面積としたか。 スパイラルダクトの数量を長さとしたか。 総合調整に必要な電力、水、ガス、油等を計測の対象としていないか。また、設計図書に記載がある場合は、必要な数量としたか。		

4. 排煙設備

4-1 排煙 ダクト設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 ダクト共通			
円形ダクト	円形ダクトの数量を口径ごとの長さとしたか。		
2 ダクト付属品			
排煙口	数量を種類、寸法及び形状ごとの個数としたか。また、開放装置を壁面に設置する場合は、索道用電線管及び開放装置取付用裏ボックスは計上したか。		
ダンパー	排煙ダクトに使用するFDをHFDとしたか。		
3 保温	円形ダクトの保温の数量は、350A以下は長さとしたか。 円形ダクトの保温の数量は、350Aを越えるものは表面積としたか。		

4-2 排煙 総合調整

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
総合調整	長方形ダクト系統の数量を表面積としたか。 円形ダクト数量を長さとしたか。 総合調整に必要な電力、水、ガス、油等を計測の対象としていないか。また、設計図書に記載がある場合は、必要な数量としたか。		

5. 衛生器具設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
衛生器具	衛生器具は、本体及び水栓、止水栓、排水トラップ等の付属金物又は付属品を含めて一組としたか。 ユニットトイレ、大便器・小便器・洗面器ユニット、オストメイト対応ユニットをユニットごとの組数としたか。 オストメイト対応ユニットのライニング内配管が配管ユニットか、現場施工か確認したか。 化粧棚、水石けん入れ、鏡等の数量を個数又は枚数としたか。		

6. 給水設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管			
配管材料	配管材料の確認をしたか。		
2 配管付属品			
水栓類	数量をその形式及び規格ごとの個数としたか。		
弁類	ライニング鋼管に取り付ける弁類を確認したか。：青銅製(管端防食コア) 青銅製の弁類を使用する場合は給水用(鉛レス)としたか。		
3 文字標識等	数量を建物の延べ面積に対応した工数として計上したか。		
案内板	図面特記がある場合、計上したか。 m ²		

7. 排水設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管			
配管材料	配管材料の確認をしたか。		
2 配管付属品			
排水金物類	数量をその形式及び規格ごとの個数としたか。		
満水試験継手	数量をその形式及び規格ごとの個数としたか。		

8. 給湯設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管			
配管材料	給湯管の管材を確認したか。 (膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む)		
2 配管付属品			
水栓類	数量をその形式及び規格ごとの個数としたか。		
弁類	青銅製の弁類を使用する場合は給水用(鉛レス)としたか。		
3 保温	煙道の断熱材の数量を煙道の表面積としたか。		

9. 消火設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 消火器具類	消火設備の器具の数量を屋内及び屋外消火栓箱、連結送水管等の形式及び規格寸法ごとの個数又は組数としたか。		
屋内消火栓種別	屋内消火栓の種別を確認したか。 ・屋内消火栓 ・易操作性1号消火栓 ・屋内2号消火栓 ・広範囲型2号消火栓		
2 配管			
配管材料	配管材料を確認したか。		
3 配管付属品			
屋内消火栓 開閉弁	屋内消火栓開閉弁の圧力を確認したか。 ・10K		
4 保温	屋外露出部分の保温の有無及び仕様を確認したか。 ・無し ・有り 保温の仕様：		
5 塗装	屋外露出部分の塗装の有無を確認したか。 ・無し ・有り		

10. ガス設備

10-1 都市ガス設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 都市ガス設備	見積りにスリーブが含まれなかった場合、別計上したか。		

10-2 液化石油ガス設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 器具類			
集合装置	接続するポンベ数としたか。 自動切り替え調整装置としてのホース、バルブ、ヘッド、計器類の他に転倒防止金物を含むものとし別計上していないか。		
ガス漏れ警報器	形式、仕様ごとの数量としたか。		
ガス栓類	仕様、呼び径ごとの数量としたか。		
2 配管			
配管材料	配管材料を確認したか。		

11. 厨房機器設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 搬入・据付	機器の据付費（調整費含む）を歩掛りに依る場合は、標準単価積算基準にある歩掛りとしたか。		

12. 屋外 給水設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管			
配管材料	配管材料を確認したか。		
管の地中埋設深さ	配管の埋設深さを確認したか。 ・ 車両通行部分は管の上端より600mm以上。 ・ 車両通行部以外の部分は管の上端より300mm以上。 ・ 寒冷地の場合は、管の上端より凍結深度（ mm）以上		
2 配管付属品			
水栓類	数量をその形式及び規格ごとの個数としたか。 不凍水栓柱の場合は耐寒水栓としたか。		
水栓柱	数量を形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。 水栓柱の材質を確認したか。		
弁類	ライニング鋼管に取り付ける弁類を確認したか。：青銅製(管端防食コア) 青銅製の弁類を使用する場合は給水用（鉛入）としたか。		
地中埋設標	数量を材質ごとの個数としたか。 (地表面：コンクリート製 舗装面：鉄製)		
埋設表示テープ	数量を埋設配管の水平長さとしたか。		
3 計器類			
量水器	数量を形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。 親メーター（○貸与品 ○買取品）、読取方式（○直読式 ○遠隔式） 子メーター（○貸与品 ○買取品）、読取方式（○直読式 ○遠隔式）		
量水器柵	水道事業者指定品（○貸与品 ○買取り） 標準図MC形		

13. 屋外 排水設備

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 配管	配管の数量を排水桝の中心間における長さとしたか。		
配管材料	配管材料を確認したか。		
2 排水桝類	数量を種類、形状、寸法及び深さごとの組数としたか。 桝の設置箇所の蓋の耐荷重を確認したか。		
3 土工事	桝類（コンクリート製）の土工事は歩掛りに含まれているので、配管長による土工事からその分を差し引いているか。 プラスチック桝の土工事は歩掛りに含まれていないので、配管長による土工事からの差し引きをしてしまっていないか。		
根切り	根切り深さを根切り基準線から排水管の底面までの深さに、砂地業の厚さを加えた平均の深さとしたか。 根切りの方法を根切り深さが1.5m未満の場合は直掘り工法とし、1.5m以上の場合は法付け工法としたか。 法付け工法の法幅を根切り深さに0.3を乗じたものとしたか。 法付け工法の作業上のゆとり幅を配管類においては0.3mとしたか。 法付け工法の余幅をゆとり幅に法幅の1/2を加えるものとしたか。		

14. 直接仮設

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
外部足場	外部足場の数量を足場の中心の水平長さ×構築物等の上部までの高さによる面積としたか。また、安全手すりの数量は足場の水平長さとしたか。 足場の種別を確認したか。（○ 種、○ 種、○ 種、○ 種）		
内部足場	内部足場の数量を対象面積としたか。なお、階高が4mを超える内部足場を高さに応じた足場とし、その数量は足場の区分に応じた足場設置対象の床面積としたか。 足場の種別を確認したか。（○ 種、○ 種、○ 種、○ 種）		
仮設間仕切り	仮設間仕切りの数量を種別ごとの面積、長さ又は箇所数としたか。		
搬入経路の養生	資材搬入通路（廊下、階段室、ホール等）の数量を通路幅を2mとした床面積としたか。ただし、対象とした幅が2m未満の場合をその幅としたか。		
エレベーターの養生	エレベーターの数量をかご内の壁面積（壁の長さ×養生に必要な高さ）及び床面積としたか。または、同一エレベーターごとの箇所数としたか。		

15. 撤去工事

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 共通事項	新設の歩掛りに対する撤去の補正率を確認したか。		
撤去の区分け	撤去後に再使用しないものと再使用するものを区別したか。		
2 機器類			
撤去	大型機器の撤去費は製造業者等からの見積りを参考としたか。 単独の機器の質量が100kg以上の機器としたか。 対象とした質量は分割搬出の場合、各単体の機器の質量としたか。 重量品(600kg/m ³ 以上)は、質量に対応した数値による補正をしたか。 容積品(600kg/m ³ 未満)は、容積当たりの質量に対応した数値による補正をしたか。 標準歩掛りを用いて撤去する機器の搬出費は搬入費の90%としたか。 揚重機の指定があるか確認したか。指定がある場合は別計上したか。 ・無し ・有り 揚重機種別：		
3 配管	数量は、施工上の分類(用途別、管種別、呼び径別、接合方法別、施工箇所別)及び関連材料別に区分したか。		
配管付属品	配管の撤去に伴う、弁類、継手等の数量を呼び径65以上を対象とし、形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。		
計器類	計器類の撤去を計上していないか。		
保温	弁類の保温の数量を呼び径65以上を対象とし、形式、規格及び呼び径ごとの個数としたか。		

16. あと施工アンカー

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
あと施工アンカー	改修工事における、配管・ダクトに適用したか。 数量を種類及び仕様等により区分したか。		

17. 切断・分岐・閉塞

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
切断・分岐・閉塞	切断・分岐・閉塞を配管、ダクトに区分したか。		
配管	配管の切断、分岐部の数量を切断、分岐される既設配管の管種及び呼び径ごとの箇所数としたか。		
	既設配管に予め分岐のための接続措置が施されている場合又は弁類への接続を計測の対象としないか。		
	既設配管の端部閉塞処置の数量を呼び径ごとの箇所数としたか。		
ダクト	設計図書に対象範囲が指定されている場合は、その数量としたか。		
	既設ダクトの閉塞処置の数量を閉塞部の開口面積ごとの箇所数としたか。		

18. はつり補修

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
埋設物調査	埋設物調査の有無を確認したか。		
	・無し(別途工事を含む。)		
	・有り (・ 走査式埋設物調査 ・ 放射線透過検査)		

19. 発生材処理

チェック項目	チェック内容	確認	
		チェック	備考
1 石綿含有品	石綿含有分析調査について確認したか。		
	・ 別途工事 ・ 本工事 撤去方法・ 図示による		
2 発生材の処理			
金属類	金属類の処理について確認したか。		
	・ 物品管理者に引き渡し ・ 構外搬出適切処理		
特別管理 産業廃棄物	特別管理産業廃棄物の処理について確認したか。		
	・ 別途 ・ 構外搬出適切処理		
石綿含有 産業廃棄物	石綿含有産業廃棄物の処理について確認したか。		
	・ 別途 ・ 構外搬出適切処理		
撤去オイルタンク の内部処理	撤去するオイルタンクの内部洗浄、中和処理等について確認したか。		
	・ 別途 ・ 本工事		
空調機器類撤去 に伴う処理	冷媒(フロン類)の回収について確認したか。		
	・ 別途 ・ 本工事		
	吸取液(臭化リチウム水溶液)、潤滑油等の回収について確認したか。		
	・ 別途 ・ 本工事		
	家電リサイクル法対象機器の有無を確認したか。		
上記以外のもの	・ 別途		
	・ 本工事		
	・ 構外搬出適切処理		